



# 日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL. 03-3503-2722 <http://www.jnpc.or.jp/>

「明るく雲一つない朝、空から死が降ってきた」



原爆死没者慰霊碑に献花した後、演説するオバマ米大統領。5月27日、広島市中区の平和記念公園で

撮影：野本 裕人（読売新聞大阪本社写真部）

各社の協力で「敵を味方に」  
新年度記者ゼミ「必須IT講座」

「インターネットが発明されなければ新聞は安泰だったのに」と旧世代はぼやく。しかし時計の針は戻せない。ならば、敵を味方につけて反転攻勢へ。

今年度の記者ゼミのタイトルは、「次世代ジャーナリストの必須IT講座」だ。毎回、各社のネットに強い記者が持ち回りで講師役になり、若手、中堅記者に実習形式でデジタルデータ処理やセキュリティなど、取材に関連するITの基礎を伝授している。参加者は40人を超え、必要なゼミ生には補講まで行っている。

昨秋、ニューヨーク・タイムズのトンプソン社長は当クラブで「10年後も記者をやりたいかったらデジタルから逃げず、対応せよ」と力説した。

新メディアを駆使できる取材力を各社の相互協力高め、それが各社によるハイレベルのスクープ合戦につながっていけば、泥くさい記者気質を尊重しつつ、新しいジャーナリズムの活性化に当クラブは貢献していきたい。



先月末に専務理事兼事務局長になりました。引き続き、よろしく願います。

（土生修二）

## 過去最多 プレス会見252回

### 15年度の事業報告・決算を承認

日本記者クラブの社員総会が5月25日開かれ、2015年度の事業報告、決算が承認された。また役員の一部交代に関する人事案件も承認された。今月の会報に事業報告要約版、正味財産増減計算書などを掲載し、当クラブのウェブサイトで事業報告全文、計算書などを公表している。

#### 「戦後70年」など多彩な会見を実施

当クラブが15年度に主催したプレス会見は計252回、総会記念講演や試写会などを加えた行事総数は278回になり、いずれも過去最高だった14年度を超えて最高記録を更新した。プレス会見の内訳は、記者会見(122回)、研究会(95回)、記

者ゼミ(18回)などとなっている。

15年度の事業の特徴としては①シリーズ企画「戦後70年 語る・問う」などの戦後70年関連会見②安保法制論議などホットなニュースに即応した会見設定③国内外に取材団を積極的に派遣などがあげられる。

シリーズ企画「戦後70年」の会見数は15年度が28回、前年度を含めると総回数は42回となった。関連企画の村山富市元首相、河野洋平元官房長官による対談には323人が出席し、15年度の最多を記録した。

新しい安保法制をめぐる論議は、国会前で大規模集会が行われるなど15年度最大の政治問題となった。安保法制について違憲派と合憲派の双

2016年度日本記者クラブ賞・特別賞 受賞のことば 4・5

読売新聞社 尾崎真理子／堀川恵子 クラブゲスト 6・7

渡辺靖／グレン・フクシマ／田中熙巳／松尾文夫／秋葉忠利／広瀬道明／河野真理子／井山裕太／カリン・フォン・ヒッペル／セイエッド・アッバス・アラグチ／稲場雅紀、西井和裕、根本かおる／バーバラ・ヘンドリクス／林成蔚／大村智／野口健

会見リポート

渡辺靖・慶応大学教授／井山裕太・囲碁七冠 8

オバマ広島訪問／セイエッド・アッバス・アラグチ・イラン外務次官 9

林成蔚・常葉大学教授／大村智・北里大学特別荣誉教授・ノーベル賞受賞者 10

記者ゼミ 11

次世代ジャーナリストの必須IT講座

ワーキングプレス

オバマ米大統領広島訪問 12  
中国新聞社 城戸 収

三菱自動車燃費偽装 13  
読売新聞社 是枝 智

大分発 熊本地震 14  
大分合同新聞社 友永敬介

北朝鮮・朝鮮労働党大会 15  
TBSテレビ 井上 波

被災地通信

沖縄と福島 とともに「国策」に翻弄され 16  
沖縄タイムス社 吉川 毅  
琉球新報社 松元 剛

南海トラフ地震対策取材団報告 17  
新潟日报社 高橋直子

書いた話書かなかった話 18・19  
対人地雷爆発の現場に遭遇 イラン・イラク戦争の最前線で 保田龍夫

リレーエッセー 20  
好漢、早世を惜しむ 元財務次官の香川俊介さん 共同通信社 吉田文和

試写会 シチズンフォー スノーデンの暴露 21  
毎日新聞社 大木俊治

マイBOOKマイPR 21

特別企画

砂防会館あの日あの時 22  
壁に刻まれた刀傷 後藤謙次

日本記者クラブ賞贈賞式・懇親会 23

会議報告／2015年度決算／貸借対照表 24・25

付録 2015年度事業報告

方の憲法学者や政治家から、国連PKOの指揮官経験者や自衛隊の元統合幕僚長などの「現場組」まで、多角的にゲストを選んだ。新聞、テレビ、ネットなどで一連の会見内容が大きく伝えられ、当クラブの存在感を示すことができた。

取材団派遣も、国内外合わせて9回と過去最多となった。国内は、沖縄では辺野古、米軍基地など、東日本大震災関連では福島第一原発を含む被災各地を訪ねた。外国は、戦後和解をテーマにドイツ、イスラエル、また地震復興視察のため中国・四川省を訪れた。

#### 収入微減、支出抑制で黒字に

決算は、正味財産増減計算書(25頁参照)によると、経常収益(収入)面では収益の約8割を占める会費が前年度比で減収したが、貸室収入な

どの事業収益が前年度を上回ったため、収益全体では約34万円の微減で3億9226万円となった。

一方、経常費用(支出)は、事業費、管理費ともに前年を下回った。人件費は定年などで職員3人が退社したが補充は2人とどめるなどで825万円減少させ、支出の最大科目である借室維持費は借室料の値下げなどで241万円の減少となり、経常費用の総額は前年比151万円減の3億8878万円となった(ただし、このうち1100万円は14年度に計上した45周年記念事業費)。

全体では、経常収益が経常費用を上回り、348万円の黒字となった。(専務理事 土生修一)

#### 副理事長に荒木NHK理事

社員総会では、荒木裕志・NHK理事、増田雅己・読売新聞東京本社取締役論説委員長、吉次弘志・テレビ東京報道局長、土生修一・日本記者クラブ事務局長の4人を理事に新任する人事案件が承認された。総会に続いて開かれた理事会では、荒木理事を副理事長に、土生理事を専務理事に選定した。中井前専務理事は顧問に委嘱された。

このうち増田理事は4月の理事会で会員資格委員長を委嘱されている。

# 時代を引っ張るジャーナリスト集団

中井 良則

米大統領に就任すると1期目の最初の日から再選戦略を考える。では、2期目の最初の日には何を思いめぐらすのだろうか。もう選挙はない。となると、いかにレガシーを作るかが大事になる。オバマ大統領が広島を訪ねたのも、レガシーとして評価されたいと願う気持ちがどこかにあったはずだ。

レガシーは死者が家族に残す遺産だが、大統領の場合は歴史に名を残す業績をさす。

## レガシー・メディアの集団

もうひとつ、このところよく聞くレガシーがある。

レガシー・メディア。

新聞、放送など「古い」と受け止められているメディアだ。インターネットという新しいメディアが手放せない人たちにとって、インターネットのない時代が残した遺産にみえるらしい。ニューヨーク・タイムズの初出は2000年1月。新語紹介の特集記事で、レガシーを「インターネット以前のものとごとのやり方」とぶつきらばうに定義している。

最近、気づいたことがある。私たち日本記者クラブは、実はレガシー・メディアの集団だ。

翌年に大阪万博を控えた1969年だった。来日が相次ぐはずの外国の大統領、首相らを招き記者会見を自前で開きたい。私たちの先輩記者はそう考え、会社を横断したジャーナリズム組織を急いで作り上げた。「クラブ」であるなら、個人が自発的に集まる仕組みが多い。だが、記者が一人ずつ参加する方式は選ばれなかった。

日本全国の新聞、放送、通信社、つまり報道メディア企業が法人会員として加わり、分担した会費で運営する道を進んだ。法人会員社の役員や社員は会社から基本会員あるいは個人会員として登録される。

## 法人会員中心主義が支えた

それから47年。いつてみれば、この法人会員中心主義が日本記者クラブの活動を支えてきた。財政面では会費収入の6割以上を法人会員が負担するため、安定収入を確保できた。組織面でも法人会員が社員総会を構

成し、理事を出す。法人会員社のベテラン記者が記者会見を企画し、司会を務める。法人会員社に属す記者ならクラブの会見に出席し取材できる。ゲストの発言は法人会員社の紙面や画面を通してニュース、コラム、番組として報道される。

企業ジャーナリズムが主流で、記者も終身雇用が多く、インターネット以前だった時代に適応した設計思想、ともいえる。

日本記者クラブが存在していないと仮定すると、報道界はどうなっているだろう。いくつもの大事なニュースが伝えられない事態が想定できる。私たちは日本社会の中で果たすべき役割がある。

このように法人会員が作り、動かしてきたクラブだが、同時に活動の範囲や性格も法人会員に規定される。

たとえば、部長クラスになって会社から会員に登録され、初めてクラブを知った記者もいる。会費は会社が払い、人事異動で持ち場が変われば会員でなくなる。一人のジャーナリストとして日本記者クラブに参加する意識も、利用する感覚も薄い。せっかく先人が作り出した組織なのに、これではもったいない。使い道はもつとあるはずだ。

## ジャーナリズムと公益と

2011年はクラブの歴史を画する年だった。3月、東日本大震災・福島第一原発事故が起こった。翌4月、公益社団法人に移行した。公益を「不特定かつ多数の者の利益」と定義する法律に縛られる。法人会員の利益だけではない。定款を書き換え「表現の自由の擁護」「国民の知る権利に資する」を目的に加えた。

ジャーナリズムと公益と会員制度と主催会見をどう組み合わせれば最適解となるのか。

会見の数は倍増した。会見動画を公開した。使いやすいウェブサイトに刷新する準備も進む。法人会員中心主義は変わらないだろうが、どの企業をジャーナリズム仲間ととらえ、新たな法人会員に迎えるかどうか、理事会が検討する時も来るだろう。

レガシー・メディア組織であるにもかかわらず、いや、むしろそれゆえに、日本記者クラブは時代を引っ張り、時代に追いついていくジャーナリスト集団であってほしい。

\* \* \*

新聞社から転職して7年2カ月。専務理事を土生修一さんに引き継ぎました。会員とゲストのみなさまに感謝します。  
(顧問)

## 日本記者クラブ賞

文芸記者24年  
畏怖する先輩に導かれて

尾崎 真理子

(読売新聞東京本社編集委員)

文化面が今よりずっと多くの寄稿で埋まっていた1990年代前半。新米文芸記者の修業はもっぱら原稿取りで、日野啓三さんの新連載「流砂の遠近法」の伴走をするよう指示されたのは、93年6月のことだった。

60代半ばの氏は、それは仰ぎ見る存在だった。東大の文学仲間、佐野洋、大岡信氏と共に読売新聞に入社し、60年に初代ソウル支局長、64年には戦乱の南ベトナムに常駐。「この現実感覚は小説の形でしか書けな



い」と帰国後、作家を志し75年に芥川賞を受賞する。以降、臨海部の埋め立てと高層化が進むメガロポリスを洞察する「東京特派員」のように、現代文学の最前線に立っていた。

対する私は33歳。文芸誌の新作を評する「文芸月評」を書き始めていた。抜擢というより前任者が相次ぎ異動したためである。日野さんもよほど心配だったのだろう、月評の掲載直後には、「小説は読み解くものじゃない」などと、たいいてい電話で小言が飛んできた。親身なアドバースも受けた。無理して授賞式の二次会に行く必要はない、その分、家で本を読むといい、子育ての時間は瞬く間に過ぎるから……。

文化面トップの原稿はその頃400字詰め7枚余。文芸誌の見開き、新書の1項目とはほぼ同量で、「この長さを一気に読ませる技量が備われば、単行本も書ける」。そう鼓舞されたこともあった。実際、この言を頼りに私は1000枚の本を書いた。

日常を注意深く見つめつつ、文明批評へ、宇宙の神秘へと思索が広がる「流砂の遠近法」には、熱心な読者がついた。氏の自伝的長編『台風の眼』も文壇最高峰の野間文芸賞を93年に受賞した。ところが、完治したはずの腎臓がんが97年、膀胱に転移。99年には鼻腔がんも見つかり、手術が繰り返される。「流砂」は同年末に休載となり、直後にはクモ膜下出血で緊急搬送。それでもなお、作家の精神は強靱で、珠玉の短篇が生み出された。

抗がん剤治療が続く慶応病院の個室にも通い慣れた、2002年4月末。めずらしく気分が良好だった日野さんは、「死を受け入れる気持ちになったよ」と、不意に語り始めた。

「人間は俯瞰する視点を獲得することで、自分たちを客観化する能力を少しずつ、身に付けたんだと思う。その準備の中に、僕の小説家としての仕事も含まれるんだろうね。ところが高層ビルの垂直のよろさを、あの9・11で思い知らされた」

「過去から未来へ、世界を伝えていくのはとてもきつい仕事で、若い人たちが僕の持つ戦争の重荷をいらないというなら、鉄の戦車を積んだ輸送船といっしょに海底に沈めてしまえばいい。海底で腐蝕した鉄は、

この本の表紙写真のように、それでも人知れず、虹色に変化し続けるでしょうが……」

刷り上がったばかりの短編集『落葉 神の小さな庭で』を手にしなごらの、死の半年前の独白はあまりに明晰、かつ氏の小説と地続きの幻想的な世界だった。夢中で聴き取って再現を試みた夕刊の記事。これを越す仕事をいまだ私はしていない。

そしてこの直後だ、石井桃子さんへ長時間の取材を申し込む手紙を送ったのは。私にスイッチが入った。95歳の石井さんへの集中した聴き取りが真夏に実現し、その内容を核として『ひみつの王国』はできている。

このたびの私の受賞を、だから誰より、日野啓三さんに報告したい。自身の死まで、能う限り客観的に伝えようとした氏から、作家を取材するとは、文学とはどのように厳粛なものであるか。教えられた。

おさき・まりこ 1959年生まれ。青山学院大学文学部史学科卒。82年読売新聞入社。92年から文化部。2015年から16年5月まで文化部長。6月から現職。

著書に『現代日本の小説』瀬戸内寂聴に聞く寂聴文学史『大江健三郎 作家自身を語る』(大江氏との共著)など。『ひみつの王国』評伝 石井桃子で15年春、芸術選奨文部科学大臣賞、新田次郎文学賞を受賞。

23ページに贈賞式関連記事

日本記者クラブ賞  
特別賞



懸案だった原爆供養塔と格闘  
取材活動は生きることの  
一部

堀川 恵子

地方民放の記者として12年、上京してフリーとなって12年、広島と東京での生活がちょうど半々となった節目の年に、思いもかけぬ賞を授かりました。

広島市の平和記念公園の片隅にある、原爆供養塔。7万ともいわれる引き取り手のない遺骨が眠る場所です。その「納骨名簿」が毎年7月、まるで歳時記のように広島市から発表され、私自身も何度か、お決まりの短いニュース原稿を書きました。それにしても、住所や氏名、中に

は本籍や職業まで分かりながら、なぜ戦後ずっと引き取り手がないのか。いつか本気で調べなくてはならないながら、あまりの重さに先送りにしてきた取材です。

広島を離れ、時間の流れが早い東京にあっても、心のどこかにやり残した無念は引つ掛かっていました。その間、司法を現場に、人間や命に関わる取材が続きました。一見、畑違いに見えるテーマですが、それも決して無駄ではなく、再び広島に取り組むための機が熟すに必要な通道であったと感じています。

いざ始めた取材は、70年という長い歳月との格闘にめまいを覚えながら、ゴールの見えない暗闇の中を、一歩進んでは二歩戻るような作業でした。たった1本の電話をかけるのに1カ月近く迷ったこともありましたが、もう諦めようかと思った矢先、信じられない偶然に導かれることもありました。気が遠くなるような効率の悪い取材の果てに思わぬ鉅脈を

掘り当てた時には、取材に近道はないという鉄則をかみしめました。

広島を離れて何年もたつてから、再び広島に通い、山や海を越えて農村漁村を歩き回る自分の姿を、われながら不思議に感じることもありました。供養塔に眠る死者たちの無言の叫びに、引き寄せられていたのかもしれません。

曲がりなりにも1冊の本にまとめることができたのは、本書の主人公ともいえる佐伯敏子さんはじめ、多くの人々と出会えたおかげです。先人たちが残してくれた貴重な記録や証言にも奮起させられました。取材とは決して単なる現在の描写や分析ではなく、過去からの蓄積と継続に支えられながら、未来へと手を伸ばす作業であることを実感しました。

テレビ局の社員として記者の仕事をしていた頃は、給料をもらいながら、自分の知りたいことを好きなかだけ調べて表現する場を与えられるなんて、こんな面白い仕事は他にないと感じていました。会社の肩書を捨ててフリーになってからは、それはもはや仕事や職業などという言葉で発するものではなく、自然に吸って吐く息と同じ、生きることの一部分になったようです。

取材して分析し、精査し、研磨し、

表現する方法を模索する作業には、プロとしての経験と見識が必要です。ですが、その根っこにあるのは常に「人の話を聴く」ことだという気がしています。取材対象者に接し、より正確に、より深く、より真実に近いところを冷静に聴き取るためには、職業人としてよりも、人間としてどうあるべきかが問われます。地に足をつけて、取材者としての自分自身を深めていかねばならないと思っています。

拙著『原爆供養塔』は及ばずながら、私の取材人生前半におけるひとつの到達点となりました。広く報道の現場を経験してこられた百戦錬磨の諸先輩方に、光を当てていただいたことにあらためて感謝し、今後の糧になりたいと思います。ありがとうございます。

ほりかわ・けいこ 1969年生まれ。広島大学総合科学部卒。92年広島テレビ放送入社。報道記者、ディレクターを兼務した後、2004年に退社。以来、フリーランスのジャーナリストとして番組制作に取り組むとともに、ノンフィクション作品を執筆。

著書に第32回講談社ノンフィクション賞を受賞した『死刑の基準―「永山裁判」が遺したもの』、第10回新潮ドキュメント賞を受賞した『裁かれた命―死刑囚から届いた手紙―「永山則夫」封印された鑑定記録』『教師』などがある。

ひろ せ 道明 東京ガス社長



「『2020年までに首都圏の電力需要でシェア1割獲得』は大変な目標だが、今さら下げられない。来春のガス自由化には「電力とガスのセット販売など競争はすでに始まっている」。「エネルギー事業を核にして新しい生活スタイルを提供する時代が来る」とも。

■ 5・9(月) シリーズ企画「チェンジ・メーカーズに聞く」⑤／司会：水野裕司委員／出席：72人

かわの まりこ 河野 真理子 早稲田大学法学学術院教授



南シナ海をめぐる中国との対立をフィリピンが仲裁裁判に付託した問題を、国際法的に解説した。「仲裁裁判所は領有権ではなく管轄権を扱う」「中国は裁判を欠席、判決も無視するだろうが、長期的には不利」。かなり難解。会見後も質問する記者の輪ができた。

■ 5・13(金) 研究会「南シナ海の領有権問題」／司会：坂東賢治委員／出席：71人

い や ま ゆう た 井山 裕太 囲碁七冠



「棋士として未熟」「(AIの)アルファ碁は私より碁が分かっている」。史上初の七冠を達成しても自己査定は厳しい。「世界を意識するが、海外のトップ棋士たちとの対局が少なく、距離感がつかめない」との悩みも。尊敬する棋士は坂田栄男と師匠の石井邦生九段。

■ 5・16(月) 記者会見／司会：橋本五郎委員／出席：89人  
8ページに会見レポート

カリン・フォン・ヒッペル 英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)所長



世界最古のシンクタンクの所長に昨年11月就任。第3回日英安全保障協力会議を今秋、東京で開催することを発表した。「日英両国にはそれぞれ、南シナ海における中国、欧州におけるロシアという脅威がある。専門知識を共有し、安全保障の連携強化が重要」。

■ 5・17(火) 記者会見／司会：杉田弘毅委員／通訳：西村好美／出席：51人

セイエッド・アッバス・アラグチ イラン外務次官



核合意の理由は2つある、と説明した。「米国が威嚇から敬意に転換した。双方がウィンウィンに変わった」。米国がまず方針を改めた、という話だ。いまや、各国首脳が次から次にテヘランへ。安倍首相訪問は「両国の転換点になる」。元駐日大使の面目躍如。

■ 5・19(木) 記者会見／司会：杉田弘毅委員／通訳：稲見誉弘／出席：43人  
9ページに会見レポート

わた な べ やすし 渡辺 靖 慶応大学教授



「トランプ現象の背景には、白人中間層の転落という米社会の構造的変化がある。理性的なオバマ大統領への反発から、本音を聞きたいプアホワイトの支持を得ている」「トランプ氏は予測不可能。過激な発言を軌道修正して変節する可能性も」

■ 5・12(木) シリーズ企画「変わるアメリカ 変わらないアメリカ 米大統領選」⑥／司会：播摩卓士委員／出席：67人  
8ページに会見レポート

グレン・フクシマ 元米通商代表部日本担当部長



トランプ旋風の要因は、「視聴者が聞きたがることをズバズバ言う」流儀にテレビ各局が飛びついたこと。さらに主流派候補同士のつぶし合いもトランプ氏を利した。ヒラリー・クリントン氏については「有能だが、人をひきつける魅力に乏しい」。

■ 5・18(水) シリーズ企画「変わるアメリカ 変わらないアメリカ 米大統領選」⑦／司会：杉田弘毅委員／出席：86人

た な か て る み 田中 熙巳 日本原水爆被害者団体協議会事務局長



オバマ米大統領の広島訪問(5.27)については「歓迎とまでは言えない。プラハ演説からの7年間は裏切られたという感じ」。「集団的自衛権には絶対反対」と強調したうえで、「今回の広島訪問が日米軍事同盟強化のために利用されるのでは」と不信感も。

■ 5・19(木) シリーズ企画「オバマ広島訪問」①／司会：瀬口晴義委員／出席：53人／会見詳録  
9ページに田中、松尾、秋葉3氏をまとめた会見レポート

まつ お り ゐ 松尾 文夫 元共同通信ワシントン支局長



オバマ大統領の広島献花を提唱した記者。その通り実現することに「感慨がある」。次は安倍首相が真珠湾、南京、重慶に献花しては、と勧めた。中国人記者から大統領が謝罪しないことを聞かれ「私は謝罪を求めない。お線香をあげる、と日本語で言うんです」。

■ 5・20(金) シリーズ企画「オバマ広島訪問」②／司会：杉田弘毅委員／出席：65人

あ き ば た だ と し 秋葉 忠利 前広島市長



「Yes, I'd like to come」。広島市長として2010年に訪米の際、オバマ大統領に直接、広島訪問を打診した時の返事だと言う。「ヒロシマに来て、被爆の実相に触れることが大事。全てはそこから始まる」「今回は謝罪を求める段階にはない」

■ 5・23(月) シリーズ企画「オバマ広島訪問」③／司会：恵村順一郎委員／出席：56人

## 会見余話

●スター並みの人気に戸惑い  
「こんなに忙しくなるとは思わなかった」。控室で大村智さんは笑顔でぼやいた。  
ノーベル賞受賞以来、講演依頼が殺到、「私の秘書は、断りの手紙を書くことが一番の仕事になっちゃった。専門の研究発表は大丈夫だが、講演は疲れるんですよ」。先生、スママセン。  
「握手してください」「写真を一緒にいいですか」と街で見知らぬ人から声をかけられるようになった。外国から返送料金を同封してサインブックが送られてくることもあるという。  
最近、路上で若い男性から「あのー、先生、女房のお腹をさすってくれませんか」と話しかけられた。男

性の隣で大きなお腹をかかえた奥さんが頭を下げていた。  
「いやあ、よわったなあと思ったが、何かのお役に立つのなら」とリクエストに応えた。  
「こうなると、ノーベル教の教祖だなあ」と博士は豪快に笑った。  
●10階ホールに避難用テントが出現！  
熊本地震の被災者救援のためテント村を設営した登山家の野口健さんの会見では、10階ホールに同型のテントが張られた。エベレストで野口さんが使ったタイプで、「ベースキャンプ(標高5000メートル)で数カ月、暮らしたこともある。寒さに強く、高さもある。長期間暮らすには人が立てることが重要。テーブルやイスも置けるタープも役に立ちます」と野口さんは説明する。昨年のネパールの地震の避難者支援でテントの

威力を実感したという。  
今回も、集団生活の避難所で周囲に気を遣っていた子ども連れの家族や、車中泊で不眠に悩んでいた人たちに歓迎された。  
「最初、希望する避難者全員が収容できないのなら不公平になり受け入れられない、と役所から言われた。でも現場に乗り込み、車中泊の人たちに一人ひとりの声をかけて回った。やれるところからやらないと手遅れになる」  
スピード重視の民間と公平重視の行政。テント村の背後に難題もあった。(事務局 土生)



稲場 西井 根本  
国際NGOネットワーク「動く→動かす」事務局長  
名古屋NGOセンター理事長  
国連広報センター所長

\*右から



5月末のG7伊勢志摩サミットでは、国連で昨年採択されたSDGs(持続可能な開発目標)が初めて議題に。NGO代表者らがG7と連動してSDGsへの期待を語った。

■5・19(木)記者会見/司会:土生修一事務局長/出席:63人

バーバラ・ヘンドリクス  
ドイツ環境・自然保護・建設・原子力安全相



G7環境相会合で来日、福島第一原発も視察し「原発の甚大リスクを再認識した」と語った。質問は原発政策に集中。「ドイツは稼働している原発が22基から8基に減ったが余剰電力を生んでいる」「2022年までにドイツは稼働中の全ての原発を停止できる」

■5・20(金)記者会見/司会:ヴィーラント・ワグナー委員/通訳:石川桂子/出席:45人

Chen Wei Lin  
林成蔚 常葉大学教授



台湾出身の政治学者が新政権を見事な日本語で解説。若者(ひまわり世代)の支持、「台湾人」意識の定着などを勝因に挙げ、人事面から新政権は「外交軍事の比重減少、内政重視」と分析。「民主化以降で女性比率が一番低い内閣」との指摘は意外だった。

■5・23(月)研究会「蔡英文の台湾」/司会:坂東賢治委員/出席:65人  
10ページに会見レポート

おおむら 大村 智  
北里大学特別荣誉教授 ノーベル賞受賞者



スキー、研究室、世話になった先生、ノーベル賞のメダル。写真を見せながら80年の人生を振り返った。「ストレスで眠れなくなった時、精神科の医師からパチンコかゴルフを勧められた。パチンコをやるわけにもいかず、ゴルフを始めたらのめりこんでしまった」

■5・25(水)総会記念講演/司会:伊藤芳明理事長/出席:171人/会見詳録  
10ページに会見レポート

のぐち 野口 健  
登山家



熊本県益城町に約600人収容のテント村を設営。「テントは避難者が求めるプライバシー保護が可能。仮設住宅完成までの有効な『つなぎ』になる」。支援した片岡聡一岡山県総社市長、菅波茂AMDA代表も同席。震災対策への有益な指摘が詰まった会見。動画必見。

■5・30(月)記者会見/司会:倉重篤郎委員/出席:45人/会見詳録

渡辺 靖  
慶応大学教授

## トランプ現象は一過性ではない

「ブッシュに可能性がないとは思っていたが、トランプが共和党の大統領候補になることは予想していなかった」という渡辺教授の正直な告白から始まった会見は、同じく予想を外した多くの出席者が、トランプ現象なるものをどう理解すればいい



のか、自問自答する場ともなった。渡辺教授は、「アウトサイダーや政治的な『変わり者』に有権者が殺到する」

光景は、1990年代からいくつか見られたものの、これまで多数派だった白人の減少と、アメリカ社会を支えてきた中間層の大幅な縮小が構造的な背景にあると指摘した。そして、中間層の社会に対する寛容度の低下を利用した排外主義、孤立主義の広まりこそがトランプ現象の本質と見る。だとすれば、「この現

象は一過性ではない。トランプが当選しなくても、トランプがうまくやったことを目撃してしまった以上、今後、第2、第3のトランプがまた出てくるだろう」と警告する。

厄介なのは「メディアがトランプ批判をすればするほど、逆にトランプ支持が拡大する」という現象。「メディアはワシントンの一部と思われるから」という分析には、ドキッとさせられる。

「トランプは何主義者なのかさっぱり分からないが『究極のリアリティーショー』をやっている」と言う渡辺教授の観察は、リアリティー

ショーの面白さに期待する人々がどんどん増えている現実を説明するのに十分、説得力がある。メディアと政治の関係は、「ワイドショー」から「リアリティーショー」に、さらにフェイズが変わりつつあるのだろうか。

リアリティーショーの結末を予測するのは、いまだ不可能。結末を見た後に、あらためて分析を聞きたい。企画委員 TBSテレビ報道局編集主幹

播摩 卓士

\*リアリティーショー ある設定下に素人の出演者たちを置き、そこでの出来事をそのまま放映する番組。撮影は隠しカメラなどで行うのが特徴で、台本がない環境で出演者の喜怒哀楽や人間関係などを映し、視聴者に臨場感を与える。

井山 裕太  
囲碁七冠

## 「新たな囲碁の考え方を示した」

囲碁界初の七冠同時制覇を達成した井山裕太九段が、世界戦へかける思い、人工知能（AI）ソフトなどについて語った。

最初の自己紹介で「究極の目標が達成できて、いまだに信じられない。ただ、棋士としてはまだまだ未熟。さらに精進して、囲碁界を盛り上げたい」とあいさつ。

司会者とのトークに入り、中国、韓国がリードする国際囲碁界について問われると、「中国は毎日のようにトップ棋士が共同研究しているが、日本ではなかなか難しい。中国は国内より世界戦に向けて力を注いでいる点もある」と分析。「今の状況では出場もままならず悔しい」と力を込めた。



韓国の世界トップ棋士を負かし

たAIについては、「ソフトは答えが出るところは強く、大局観や感覚的な部分では人間にかなわないと思っていたが、違った。むしろ、人間的に答えが分からない場面で感心した。対局した碁を見た限りでは、私より少し分かっているかなと思った。新たな囲碁の考え方を示してくれたかもしれない」と高く評価した。

26歳という若さなのに、いつものように、流れるような受け答え。誰に取材しても悪評を聞いたことがない。どこまでも人格者なのだ。質疑応答に入り、「欠点はないのですか」と意地悪な質問を投げかけると、「自分の中では、挙げればきりがない。対局で言うところ……と、やはり優等生的な答えが返ってきた。

お隣の将棋界では羽生善治前名人が20年前に七冠を達成している。「20年たった今もトップでいることに尊敬の思いしかない。全盛期の強さより、強さがいかに長く続くかがより重要。私もそうありたい」と羽生前名人をたたえた。

会見時（5・16）は、本因坊戦七番勝負の防衛戦真っ最中。帰り道、「今日で、取材関係はほぼ一段落。明日からは対局に集中です」と笑顔で語っていたのが印象的だった。

毎日新聞社編集委員 金沢 盛栄

## シリーズ企画

## 「オバマ広島訪問」

立場異なる3者  
実現への評価は一致

オバマ米大統領の広島訪問（5・27）を前に、被爆団体代表者、ジャーナリスト、前広島市長の3人が、それぞれの立場から今回の訪問について考えを語った。

トップバッターは、被爆者の団体である日本原水爆被害者団体協議会の田中照巳事務局長（5・19）。

田中さんは、「もう手を挙げて歓迎できない」と今回の訪問に対し、厳しい事前評価を下した。理由は、オバマ大統領が2009年のプラハ演説で、核廃絶をめぐる米国の道義的責任に言及し、米国のCTBT批准を約束したのにこれまで批准はおろか、核政策を何も変えていないからだ。

大統領の謝罪については「被爆者に謝罪してほしい。ただ、強く求めることが核兵器廃絶の障害になるのであれば、ぐっとこらえる」と複雑な心境を述べた。

翌日（5・20）は、元共同通信ワシントン支局長の松尾文夫さんが登壇した。

松尾さんは05年、米大統領が広島を、日本の首相が真珠湾を訪れる「相互献花外交」を提案した。

オバマ広島訪問実現で今度は日本側の対応が注目される。松尾さんは、首相の真珠湾訪問に加え、「和解のため、中国へは南京や重慶での献花、韓国へは首相が従軍慰安婦に（謝罪の）手紙を送る」との提案を行った。また「今回の訪問実現は、広島選出の岸田外相の存在が大きい」と分析した。

前広島市長の秋葉忠利さん（5・23）は、今回の訪問が、「最悪の敵同士だった日米が最大の被害地ヒロシマで和解し、共通の敵と戦う新たな同盟関係に入る」という安倍首相演出の「安倍劇場」になる危険を指摘した。

しかし、それでも今回の訪問に意義があるとする。

「広島にきた外国人はだれもが人生が変わるほどの経験だったという。オバマ大統領も被爆の実相に触れれば、あらためて核廃絶に向かう気持ちになるかもしれない。また世界のマスコミが広島発で報道する影響力も大きい」

「満点ではないが、訪問実現は評価したい」あたりが御三方の事前評価の共通項か。

（土生修一）

## セイエッド・アッバス・アラグチ

イラン外務次官

## 自信深める中東の大国

イランは、2002年に発覚した核開発問題で制裁に苦しんだ日々を終わりを告げた。アラグチ氏は会見の冒頭、今や主要国の経済発展のパートナーとなったことを強調した。アフマディネジャド前政権下でテヘラン特派員だった私には、このような日が来るとは想像できなかった。

「1月に核合意履行の日を迎えた後、6カ国の国家元首がイランを訪問した」。アラグチ氏はイタリアや韓国を例に挙げた。ロハニ大統領が仏伊歴訪で、エアバス社の118機購入を含む計500億ドル分の協定や覚書を結んだと報告。日本には石油・天然ガスや自動車などの分野で投資を呼びかけ、新幹線や原発建設での協力希望まで飛び出した。



「混乱を

極める中東でイランは唯一と言っていいほど治安がよく、政治的に安定している」。こんな言葉も、以前とは違って胸に響く。

ここまで状況を変えたのは、ロハニ政権の対外融和路線だ。アラグチ氏は駐日大使を経て、外務次官として核問題の協議で米英仏中口独と渡り合った。「わが国の外交政策は核協議をモデルとして進めている」。キーワードは「ウィーンウィーン」だ。国際社会を安心させる発言だった。

ただ、核関連の制裁が解除されても「一部の企業・金融関係者は（イランとの取引に）まだ完全な信頼を置けないと考えている」と認めた。「10年かけて壊れたものが、4カ月で元に戻るとは思わない」

米国にとってイランは依然としてテロ支援国家で、核以外の独自制裁も存在する。核合意の履行が壊れないという絶対の保証もない。ロハニ政権の後に保守強硬派が再び伸長したら……。そんな不安も浮かぶ。

中東の大国として自信を深める一方で、そう簡単に制裁前に戻るわけではないという現実も認識する。アラグチ氏の率直で冷静な語り口から、現在のイランが置かれた状況がよくわかった記者会見だった。

朝日新聞社国際報道部 吉武 祐

Chen Wei Lin  
林成蔚  
常葉大学教授

## 不確実性の時代の不安

5月20日、民進党の蔡英文主席が新しい台湾総統に就任して3日後の会見だった。テーマは「蔡英文の台湾」。蔡政権で台湾はどうなるか、蔡政権を生んだ台湾社会はどう変化したか、2つの問題に注目した。



20年前、台湾初の民選総統に李登輝氏が選ばれた。その時から総統選挙を見てきた。毎回、台湾の熱気にあおられて高揚したが、今回は政権交代が起きたというのに、総統就任式後どこか不安が残る。「不確実性の時代に入った」という国民党の洪秀柱主席の言葉が引つかかる。台湾も中国も、米国も日本も、近未来に何が起きるか分からない霧の中に入ったのではないか。そう思っただけで聞きたせいか、林成蔚氏も慎重に言葉を選んでいるように思えた。

林氏は、台湾社会の変化を示す例のひとつとして129万人の「首投族（今回、初めて選挙権を行使した若い有権者）」の投票傾向を挙げた。蔡氏の得票は4年前の総統選より約80万票増えているので、若い世代の票が蔡氏に流れた可能性がある。

首投族が生まれた時、台湾の民主化が起きた。生まれた時から民主主義体制の下で育った若者たちが、民主主義を認めない中国から「ひとつの中国」を押しつけられても同意できないのは無理もないことだ。今後、選挙権を得る若者たちが「自分は中国人」というアイデンティティーを持つとは考えにくい。

だが、建国以来、民主主義を体験したことがない中国人には台湾の若者の意識は理解できない。まして習近平国家主席は文革世代だ。最近の発言を見ると「共産党への忠誠」だの「共産党中央への絶対服従」だの、アナクロな思考が目立つ。台湾が「絶対服従」を拒否すれば、武力行使をためらわないかもしれない。

蔡総統は独裁政権の恐ろしさを知る世代。中国に関する発言は極めて慎重。不確実性の時代の台湾には蔡氏の知恵が必要だ。

毎日新聞出身 金子 秀敏

おおむら  
大村 智  
さとし  
北里大学特別荣誉教授

## ノーベル賞に必要な知恵はスキーで学んだ



昨年、ノーベル賞を受賞した大村智博士の総会記念講演会は、何度も笑いに包まれた。

山梨県の農家に生まれ、農繁期は夜明け前から手伝いをさせられた。一方、農閑期は大好きなスキーに熱中、国体にも出場した。

うまくなるには「レベルの高いところにいること。いつの間にか自分もレベルが高くなる」。勝つためには「学んでいるだけではダメ。独自の方法が必要」。それをその後の人々でも実践してきたと話す。必要なのは全てスキーに学んだと言っているようだった。

講演で紹介された写真は、他の人と一緒に写ったものが多かった。人とのつながりを大事にしていること

がうかがえた。渡米後は、著名な研究者との記念写真が続いた。早くから高く評価されていたことが分かる。

受賞理由となったエバームメチンは、ゴルフ場で見つかった。そのゴルフを始めたきっかけに驚いた。「夜眠れなくなった」とき、精神科医に「パチンコかゴルフか。他のことを忘れるようなことをしなさい」と言われたという。「5年でハندی5までいった」。やはりノーベル賞学者は違う。

無償の薬で熱帯地方の人たちを救っただけではない。伝統のある北里研究所を再建した。

再建を決心したとき「あなたはいつも給料の安いところに行く、と家内に言われた」と笑った。だが、夫人は「研究をやるのが条件ですよ」と付け加えたという。内助の功があったのだ。

受賞が決まった日の記者会見を思い出した。首相からかかってきた電話を手にした職員が現れた。大村さんは大勢の記者が待っているからと、電話に出ずに会見を始めた。

講演を聴いて、この人だからできたのだと感じた。

東京新聞論説委員 井上 能行

51  
記者ゼミ

こうした背景から第1回講座では、ネットワークセキュリティの基礎知識を学び、暗号化メールとコマンドラインの実習を行った。日常的に使われているメールやパスワードがどれだけ安全性の低いものか、米国の筆頭に各情報機関が膨大な情報を収集し、個人を丸裸にしようとしているかといった点が解説された。その上で、取材源と自

アイルを処理・分析しなければならなかった。もしデジタルデータが取り扱えない者に渡っていたら、同文書はいまだ明るみに出ないままだったかもしれない。

セキュリティの基礎とコマンドライン実習

## デジタルデータの取り扱いは記者の必須技術に

5・10(火) 講師：松浪功・中日新聞電子編集部／出席：49人+ネット視聴7人

「パナマ文書」が世界に衝撃を広げる中で、「次世代ジャーナリストの必須IT講座」は始まった。同文書公開に至る経緯で、記者は情報源との通信を常に暗号化し双方の安全を保つ必要があったし、テキストや画像などさまざまな形式の2・6テラバイトに及ぶフ

身を守る手段の1つとして暗号化通信を覚えていたのだが、大事な点は、今日安全な技術も明日には破られる可能性があることだ。これを契機に、自ら勉強を続けることが肝要と感じた。

コマンドライン実習では、大量のデータ処理やファイルの定型操作などを効率的に行えるコマンドのエッセンスを体験した。パナマ文書だけでなく、先だってピュリツァー賞を受賞した、警官による民間人射殺を扱ったワシントン・ポスト紙の報道も、データ分析を駆使したものであったことは記憶に新しい。

ところで実習の最終課題は「4桁の暗証番号付きの圧縮ファイルを解凍する」というものだった。有志による補講のおかげもあって筆者も成功したが、これはつまり、素人でも数時間勉強すれば4桁の暗号など無きに等しくなることを意味する。ここでもあらためて、セキュリティの難しさを実感させられることとなった。

産経新聞社編集局経済本部  
松田 麻希



今シリーズはゼミ生同士で教え学び合う

文書入力・編集ソフト「アトム」を使った実習では、プロ野球選手の成績一覧から「打数」や「安打」などの文字だけを一括処理で削り、数字だけを抜き出した。データ整形ソフト「オープンリファイン」を使った実習では、熊本地震のデータから「緯度」や「経度」「マグニチュード」を示すアルファベットを取り除き、

正規表現とデータ整形

## 「きれいなデータ」化で実感したITスキルの重要性

5・24(火) 講師：西尾能人・朝日新聞社統合編集センター次長／出席：41人+ネット視聴3人

ニュース価値のあるデータが手元にあるが、必要な情報も混じっていて、すぐに記事や図表に使えない。日々の業務で、こうした状況に直面したことはないだろうか。2回目の記者ゼミは、そんな時に役に立つ「正規表現とデータ整形」がテーマ。講師の西

尾さんが「ツールとして有用に使える」とお薦めのソフトを使った実践的なものになった。

処理しやすい形に加工した。

記事や図表にまとめるには、元データをこうした「きれいなデータ」にする下準備は必須だ。ひたすら削除ボタンを押せばできないことはないが、ミスとは背中合わせだ。時間もかかるし、作業要員もいる。それならば基本的なITスキルを身につけ、「作業を自動化した方がいい」という西尾さんの話は説得力があった。

租税回避地の利用実態を暴いた「パナマ文書」のデータ量は文庫本2万6000冊に相当する。そこまで膨大なデータでなくても、提供されたデータが紙だけだったり、電子データでも不必要な情報が混じっていたりして、途方に暮れることはよくある。あらゆる情報がデータ化される現代社会において、取材現場で直面するデータは、増えることはあっても減ることはないだろう。

広がる「情報の大海」を前に、われわれは徒手空拳で挑もうとしていたのではないか。さまざまなソフトを使いこなすITの基礎知識の重要性をあらためて認識した。

読売新聞東京本社経済部記者

小川 直樹

52  
記者ゼミ

オバマ米大統領 広島訪問

城戸 収(中国新聞社)

## 評価はまだ早い 「核なき世界」実現へ声上げ続ける

広島は5月27日、被爆71年の夏を前に初めて、原爆を投下した米国のオバマ大統領の訪問を受けた。歴史的な1日だったことは間違いない。ただオバマ氏の訪問、その演説について評価することはまだ早いのではないかと感じている。

訪問を、被爆者も市民も総じて好意的に受け止めた。「謝罪」を求める声は大きくはならなかった。だが、当然ではあるが歓迎一色ではない。原爆で肉親を奪われた人もいる。放射線を浴び今も病に苦しむ人もいる。その胸の内が、差はあっても波立たないわけではない。

編集局内もそうだった。日米両政府が言い立てた「未来志向」や「和解」という言葉に違和感を覚えるとの声は根強かった。現職大統領の訪問を前向きに打ち出した方がいい、という主張もあった。意見が割れるというのではない。多くは、少なくとも私は、そうした感情が振り子のように揺れながら当日を迎えた。

### 限られた取材機会 詳細も直前まで分からず

現職大統領の広島訪問をどう紙面に刻むか。議論を重ねる中で一致したのは、オバマ氏に平和記念公園に立つ重みを知ってほしいということだ。公園にはかつて街があり、一発の原爆が多くの人を消し去った。目を背けられては訪問の意味はない。

当日の朝刊に4ページ特集を組んだ。オバマ氏本人に読んでもらうとのコンセプト。メインは1997年から2000年にかけて爆心地一帯の生と死を追い掛けた「遺影は語る」総集編。1882人の遺影を見開きで再掲した。社説、訪問決定後から走らせた被爆者の声の連載の一部とともに英訳して掲載した。さらに、当日の言動を克明に記録しようとした。謝罪の言葉はなくと、それらに全てが表れると考えた。



「オバマさん、読んでください」——1882人の遺影が並ぶ見開きと被爆者の声の英訳が載る特集。訪問当日5月27日付中国新聞朝刊

だが、想定以上に取材機会は限られた。広島滞在は1時間32分、公園には52分。代表撮影が多く、周辺のビル屋上からは警備上の制約で撮影できない。公園が見渡せるマンションを訪ね、住人に撮影させてもらおう頼んで回った。原爆資料館の見学も非公開。どんな展示を見たのかさえ明らかにならなかった。

当日の行程も漏れ伝わってはきていたものの、ぎりぎりまで判明しなかった。訪問行事に招待された被爆者に外務省から打診があったのは前々日夜。オバマ氏との抱擁が世界に発信された被爆者、森重昭さんの出席を把握したのは前日だった。公園への立ち入り制限が解除され

たのが午後6時35分。本格的な周辺取材はそこから始まるタイトなスケジュールだった。「有事」も考慮して支社局から記者を集め、総勢70人以上で何とか乗り切った。

サプライズと言え、17分間に及んだ「ヒロシマ演説」。ホワイトハウスは事前に「数分間の所感」と公表していた。さまざまな配慮が行き届いた内容に、わざと短めの所感とアナウンスしたのではと勘ぐりたくなってしまう。

振り返れば日米の和解演出がそこかしこにあった。米側の森さん招待もその1つ。森さんは長年、被爆死した米兵の調査をしてきた。米側が森さんの存在を知ったのは広島訪問の正式決定直前。実は本紙記者と米関係者とのやりとりがきっかけだ。そんな細かい情報も漏らさずに生かした米側の姿勢には驚かされた。

オバマ氏の広島訪問を日米両政府とも成功とみているのだろう。だが評価するのはまだ先だ。日米両首脳が被爆地でうたった「核兵器なき世界」に向け、行動で示してこそ歴史の意義を持ち得る。被爆地の新聞社として、そう指摘し続ける。

きど・おさむ ▼1996年入社 報道部  
広島県政 広島市政各キャップ 東京支社勤務などを経て 今年3月から報道部デスク

## 三菱自動車燃費偽装

是枝 智(読売新聞社)

# 大きかった不正の代償 業界・行政の課題は重い

またか――。

4月20日午後。第1報を聞いた時の正直な感想だった。そして、すぐに思った。「これは大変なことになる」。その後は懸念した通りの展開をたどり、自動車業界の再編にまで発展するというおまけまで付いた。

三菱自動車による燃費データの偽装問題である。

### 会見2時間

### 「再犯」に厳しい質問続く

相川哲郎社長らが出席して午後5時すぎから国土交通省で始まった記者会見は、約2時間に及んだ。

独フォルクスワーゲンのように排ガスを試験の時だけ少なく見せかけた排ガス不正とは異なるものの、2000年代のリコール隠しで再生を誓ったはずの三菱自の「再犯」だけに、厳しい質問が相次いだ。

ユーザーが車を購入する際、燃費の良さは判断材料の1つになる。それにもかかわらず三菱自は、燃費測



記者会見で頭を下げる三菱自動車の益子修会長(右)と相川哲郎社長(5月11日/東京都千代田区/読売新聞社提供)

定の基となり、空気抵抗を含めた車両全体の抵抗を指す「走行抵抗」のデータを不正に算出していた。

具体的には、国が定めた測定方法とは異なるやり方で測っていただけでなく、軽自動車の「eKワゴン」や「デイズ」(日産自動車向け)では燃費を良く見せるために都合の良いウソの走行抵抗値を使っていた。

国交省が「これは架空のデータを使った捏造だ」と厳しく批判するほ

どの内容だった。その後、「RVR」などで走行抵抗を実測せず、机上計算していた事例が明らかになり、三菱自の信頼は失墜した。

「競合が激しい軽自動車分野での燃費トップ達成へのプレッシャー」「硬直化した人事」「高圧的言動による物言えぬ風土の醸成」――。

入手した三菱自の国交省への報告書には、燃費データ不正を働いた背景について、こう記されている。

どんな企業にも目標はある。「それを達成するために努力することが悪いのか」。不適切な会計処理が発覚した東芝の幹部も、そんなことを言っていたのを思い出す。

しかし、実現できないような目標は空想だ。サラリーマン社会において、幹部の無理な指示に部下が逆らうのは簡単ではない。根拠のない目標を掲げ、達成を強いる幹部の言動は無責任としか言いようがない。

### 周到な準備進めた日産 かん口令敷かれ取材は難航

消費者を欺いた代償は大きかった。5月12日。日産本社近くにある横浜市の会見場に姿を現した日産のカルロス・ゴーン社長と三菱自の益子修会長の表情は対照的だった。

不正発覚からわずか3週間余り

で、三菱自が日産の事実上傘下に収まることが決まったのだ。

もともと、日産は三菱自との提携拡大を模索していた。そこに降って湧いたのが燃費偽装問題だ。三菱自の株価はほぼ半値になった。日産から見れば、狙っていた企業を半額で手に入れられる。ゴーン社長がチャンスを逃すはずもなかった。

日産、三菱自の社内にはかん口令が敷かれ、極秘交渉の取材は難航した。半年や1年かかることが珍しくない企業の合併・買収(M&A)交渉が短期間でまとまったのは、日産が周到に準備していたからだろう。合意内容を見れば、日産が有利に交渉を運んだことは一目瞭然だった。

これまで三菱自を支えてきた三菱グループの「御三家」(三菱重工業、三菱商事、三菱東京UFJ銀行)も、「お荷物」を処理できるのだから反対する理由はなかった。

燃費不正はスズキに飛び火している。自動車メーカーの性善説を前提にしてきた車の燃費測定や、型式指定制度の欠陥も明らかになった。一連の問題が自動車業界や行政に投げかけた課題は重いと感じている。

これえだ・さとし▼1992年入社 経済部 ロンドン支局などを経て 2013年から経済部次長

## 大分発 熊本地震

友永 敬介(大分合同新聞社)

## 観光に深刻な影

## 大分・熊本両県で危機突破めざしたい

4月16日午前1時25分、別府市内の自宅で、これまで経験したことのない横揺れを感じて目を覚ました。

大分県内では別府と湯布院(由布市湯布院町)で県内観測史上最大となる震度6弱を記録。直後に別府市内を取材すると、ホテル駐車場にはパジャマや浴衣姿で慌てて飛び出した宿泊客が不安そうに集まっていた。

熊本と大分の地震では、熊本県益城町で震度7を記録した同14日の前震と16日の本震以降、熊本県内と大分県別府、湯布院地域を震源とする余震が相次いだ。デスクとして本社と別府支社や湯布院を担当する由布支局との連絡、出稿調整などに当たった。

16日の本震直後は県内でもJRなどの交通機関が止まり、観光客が家に帰れない状況も起きた。宿泊キャンセルが相次ぎ、観光地から人影が消えた。取材する記者たちも経験したことのない事態に戸惑っている様子が分かったし、原稿を受け取った

私自身、「こんなことが本当に起きているのか」と信じられなかった。

## 応援記事と被災状況

## 同居のジレンマ

ゴールドデンウィーク(GW)に入ると、被災地もやや元氣を取り戻したかにみえた。金鱗湖や土産品店が並ぶ湯布院の「湯の坪街道」を取材した由布支局長は、「思ったよりお客さんが多くて業者も喜んでいます」と伝えてくれた。支局長も被災者となり、避難所で住民とともに不安な夜を過ごしただけに、心底うれしかったのだろう。そんな話も、震度5強をはじめとする余震が無残にも打ち砕いていった。

県によるとGW期間中(4月29日(5月8日)の県内の主要観光施設の入場者が前年同期比で47%減、宿泊施設が35%減と、前年対比では調査を始めた1995年以降で最大の落ち幅を記録した。大分自動車道が別府―湯布院間で土砂崩れや橋脚の

破損で通行止めとなり、復旧がGW明けにずれ込んだのも痛かった。

余震の長期化は「風評被害」を増幅させた。県内ではほとんどの宿泊、観光施設でそれほどの被害もなく、本震発生直後も営業を続けている。

一方、余震が続く状況では行政も観光・宿泊関係者も「安心だから遊びに来て」と言えない状況となり、有効な手を打てないジレンマに陥った。本紙でも観光地や被災地を応援する記事と地震の被害、注意を呼び掛ける記事が同居する状況が続き、記者も取材と紙面づくりに頭を悩ませた。

## 「湯布院ブランド」築き上げた力を再び

本震から1カ月以上が過ぎ、今で



本震後、JR久大本線が不通となったため、湯布院駅からタクシーに乗り込む観光客(4月16日/由布市/大分合同新聞社提供)

は大分県内ではほとんど揺れを感じることにはなくなった。しかし、熊本から別府に至る、いわゆる九州観光の「ゴールドルート」で発生した地震は、県内だけでなく周遊観光の九州全体に深刻な影を落としている。別府市ではGW以降の宿泊客が例年の3割程度にとどまっているという。

今回の被災で旅行会社、観光客の視線が九州以外の他エリアに向く恐れもある。長期化すれば観光業者の資金繰りに影響を与えかねない。国や大分県が検討する旅行クーポン券発行など、風評被害の早期終息に向けた「ばらまき」も短期的には必要だが、それだけでは解決につながらないと感じる。

75年に起きた大分県中部地震では今回同様、湯布院が大打撃を受けた。住民は逆境の中、まちづくりに全力を傾け、現在に至る「湯布院ブランド」を築き上げた。大分、熊本両県が手を携え、観光の立て直しに向け広域的な取り組みで未曾有の危機を乗り越えることが必要だ。さらにいえば、今回の地震から学び、次代につながる魅力創出など新しい動きが出てくることも期待している。

ともなが・けいすけ▼1995年入社  
別府 佐伯両支社 本社報道部などを  
経て 今年4月から報道部次長

## 北朝鮮・朝鮮労働党大会

井上 波(TBSテレビ)

肩透かしの連続  
「見せたい場所」から見えたもの

私「明日の取材予定は？」

案内人「明日になれば分かります」

10日間の滞在中、この会話を何度繰り返したかわからない。

36年ぶりの朝鮮労働党大会の開幕を3日後に控えた5月3日、私たちは平壤空港に降り立った。

今回招かれたのは日米欧を中心に12カ国から44社・120人余り。ホテル1階の会議場にプレスセンターが設けられた。インターネットは韓国のサイトや北朝鮮に批判的な一部の記事以外は、フェイスブックやツイッターもつながった。

大同江の中州の突端に位置する羊角島ホテルは、好奇心旺盛な外国プレスを閉じ込めておくには格好の場所だ。自由に出歩くことは許されないため、取材に向かう車中でも常にカメラを回し続けた。タクシーやスマホを使う人の数が飛躍的に増え、少なくとも、私たちの目に触れる平壤に経済制裁の影響は見られなかった。



党大会の様子を放映する朝鮮中央テレビの画面を撮影する外国メディア(TBSテレビ提供)

北朝鮮側は私たちを「見せたい場所」にしか連れていかない。だから私たちはその裏にある彼らの狙いを見定め、反対側に何があるかを想像しなくてはならない。

## 「皆さんは、党大会慶行事の取材団です」

金正恩氏の号令で、わずか1年で

作り上げられたという「未来科学者通り」は、平壤中心部にあるカラフルな高層ビルが立ち並ぶ一角。訪問した工業大学の教授宅は250平方メートルの5LDKで家賃は無料。テレビやエアコン、コンピューターにカラオケまで全て党が揃えてくれたのだという。

「ここに住むことができて、幸せで毎日踊っています」と教授の母親は言っていた。徹底的に恵まれた特権階級が存在する一方で、格差が広がっているに違いないのだが、その現状が私たちの目に触れることはない。

朝鮮労働党大会が開幕する日の朝、私たち外国メディアは行き先を告げられないままロビーに集合した。金正恩氏が出席するイベントの際の「携帯電話を持つな」とか「ネクタイをしろ」という指示がなかったので、開幕式の取材でないことは察しがついた。結局、私たちが連れていかれたのは党大会会場の「4・25文化会館」から大通りを隔てた場所だった。なぜ党大会を取材させないのかと問う私の同僚に、案内人はこう言ったそうだ。

「皆さんは、党大会の取材団ではなく、党大会慶行事の取材団です」最終日の午後、食品工場の取材が

設定された。しかし、何か様子がおかしい。北朝鮮側が一部のメディアだけを党大会の取材に連れていったことが分かって、残されたメディアがざわつき始めた。

「説明があるまでは動かない」と、結局、食品工場の取材をボイコットした形になった。党大会から戻った責任者は、なぜ自分が非難されるのか全く理解できない様子だった。自由なメディアを持たない彼らにしてみれば、反発は予想だにしていなかったのだろう。

## メディア対応に見る北朝鮮の「度量」

今回の滞在中、英BBCテレビの記者が一時拘束され、国外退去になった。訪れた小児病院の患者や医師が「本物ではなく取材用に用意されたもののように見える」などとする報道内容が問題視されたという。

コトの真相は分からない。報じる側の先入観が強すぎるのも問題だと思う。ただ、北朝鮮が現在のように「良い部分」だけを私たちに見せて、負の側面を指摘する人間を排除し続ける限り、彼らが望む国際社会の理解を得るのは難しいだろう。

いのうえ・なみ▼1991年入社 社会部 ニュース23 ワシントン特派員などを経て 2014年9月から北京支局長

## 「現地の問題」に 押し込めるな

吉川 毅（沖縄タイムス社）

安全保障という名目で利用されている沖縄県、首都圏への電力供給のために利用されてきた福島県。それぞれの問題について、安易に「国策」という言葉で、ひとくくりに語られることに違和感を覚える。

両県に背負わされている国策は、政府の向き合い方や歴史的な経緯が異なり、両県に対する国民の見方も違う。それぞれの場所で抱える激しい怒りや重い苦しみ、住んでいる人々の状況や思いも一人ひとり違う。それぞれを丁寧に見つめ、考え、傍観者ではなく当事者の目線で何を伝えることができるのか。それは地方紙の使命であり、全国紙がまねできない強みでもあると考えている。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から5年。これまで沖縄タイムスでは、毎月11日に「沖縄の防災」特集を継続、発生直後から毎年、東北に記者を派遣している。今年は、記者計8人が「3・11」に合わせて現地取材した。沖縄から支援を続ける人や東北に住む沖縄出身者の目を通して現状を伝えた「歩む つな

ぐ」「心と心」の2パターンの随時掲載記事。「希望の足音」とともに歩む「明日を重ねて」「3・11」と沖縄」の3タイトルの連載、3月11日当日は8ページの特集を作った。

全国紙をはじめ震災関連の記事についてマンネリ化などと課題の声がある中、風化させず、継承していく大切さは、沖縄戦の経験や米軍基地を抱える沖縄の地元紙だからこそ考えなくてはいけない。たとえ「当事者」でなくとも「地域の痛み」に目を向け、つぶさに伝える姿勢は「基地問題は全国民で考えるべきだ」と訴えているからこそ、でもある。

基地に苦しむ沖縄県。米軍がらみの事件事故、構造的差別……。本土復帰44年を経ても変わらない不条理。

原発事故の先が見えない福島県。健康被害、風評被害……。汚染水対策、廃炉、賠償など課題は山積みだ。

2つの「国策」の根底には、傍観者になっている国民一人ひとりの加害性、責任がある。それぞれの問題に目を背けず、共有し、どう伝えるか。沖縄と福島だけの問題として押し込めてほしくない。

（よしかわ・つよし 社会部）

### 被災地通信④

## 沖縄と福島

ともに「国策」に翻弄され

## 「人ごとの論理」を超えて

松元 剛（琉球新報社）

「人ごとの論理」が、基地問題と原発問題の本質を見えなくしている。限られた地域に押し付けるエネルギーと安全保障の負担に見て見ぬ目を決め込み、不都合な真実から目を背ける。国と多くの国民に広がる弊弊ではないか。

「3・11」から5年余。基地問題を抱える沖縄で、原発事故後の福島の苦悩を共有したいという思いを込めた紙面づくりの核にある問題意識である。

「被災地の苦しみを忘れてはならない」。それを形にした取り組みが2つある。「復興と課題 東北の新聞から」は毎月11日の月命日に見開き2面で、被災3県の4紙（岩手日報、河北新報、福島民報、福島民友）の協力を得て、12〜14本の記事を転載している。被災者の暮らしに深く寄り添い、復興への歩みと課題を照らす記事は当事者性にあふれる。13年4月から38回を重ね、転載記事は500本近くになった。

被災者の生の声に触れ、沖縄県民と共に支援の在り方を探るフォーラムを、11年、14年、16年と2年ごとに開いている。今年は、過酷な原発事故後の重要課題が「心の復興」であることを共有した。精神科医の蟻塚亮二氏は地域共同体を失った被災者の診察を踏まえ、「国や東電が原発事故の責任を認めないため、喪失から再起を図る住民の心の傷が回復しない」と報告した。いわき市で被災者支援に取り組む里見喜生氏は福島訪問を呼び掛け、「自分ごと」の意識が風化を防ぐと訴えた。

福島の現地に赴いた記者による連載企画では、13年の「原発事故とウチナーンチュ」と14年の「国策の果てに 福島・沖縄 強いられた犠牲」が反響を呼んだ。いずれも当銘寿夫記者（現政治部）が担った。

13年の連載は、除染作業などに携わる沖縄出身の作業員を訪ね歩き、現地の事情に疎いことにつけ込まれ、格段に不当な「中間搾取」の実態を浮かび上がらせた。14年の連載は、国策に翻弄される福島の被災者を通し、沖縄との共通点を探った。福島と沖縄に犠牲を強いてきた多数の国民の「無関心」をどう克服するか。腰を据えた紙面作りを続けたい。

（まつもと・つよし 編集局次長）

# 南海トラフ地震対策・高知県視察 減災への知恵、住民と共に磨く

高橋 直子(新潟日報社)

内閣府が示した南海トラフ巨大地震の新たな被害想定で、全国一の津波高が想定される高知県を総勢8人で訪ねた。2012年3月に新想定が公表されて以来、現場ではさまざまな対策が進んでいた。

34・4メートルという全国一の津波高を示された黒潮町は、「避難放棄者を出さない」ことを目標に対策を始めた。町は200人弱の全職員を防災担当とし、住民と一緒に避難設備を点検、必要な津波避難タワーなどを整備した。浸水エリアでは、



黒潮町万行地区津波避難タワー 左手前の踊り場のように見える部分は、新想定以前に作られた。高さが足りないことがわかり、新タワーを併設した

家族構成、避難方法、住宅の耐震性などを書き込んだ「戸別津波避難カルテ」を作った。対象は3791世帯、回収率100%を誇る。新想定は地価の暴落といった「実害」ももたらした。

震災前過疎が危惧された。これをバネに、町は缶詰工場を建設。アレルギー対応や食味を追求した非常食を津波高の「34M」を記した缶詰にして売り出し、防災の町をアピールした。18人の雇用を生み、さらに拡充する計画だ。

「後ろ向きになるな、前を向け」と職員に指示し続けてきた大西勝也町長は、「新想定があったから、結果としていい町ができた、となれば、ありがたい」と話す。

カツオの一本釣りで知られる中土田町長。海辺では道の駅などの観光



尾崎高知県知事



大西黒潮町長



池田中土佐町長



中土佐町1号津波避難タワー 左奥が集落へつながるスロープ。愛称「純平タワー」は久礼を舞台にした漫画「土佐の一本釣り」の主人公から。約400メートル北側にある2号タワーはヒロイン「八千代」の名前を

施設建設も控えている。衝撃的な想定にひるまず、命を守り抜くすべや地域の価値を、住民と共に考え、磨く。それぞれの町の取り組みは、人口減少に悩む全国の町でも応用できると感じた。

(たかはし・なおこ 論説編集委員)

## 日程

5月9日(月)南国市・大湊小学校南津波避難タワー(南国市危機管理課担当者の説明)▼高知市・尾崎正直知事会見(高知県庁)▼「わんぱくこうち」で津波救命艇の見学と説明(高知市地域防災推進課担当者)▼岡村真高知大学特任教授のブリーフィング(高知新聞社会議室)▼下知地区減災連絡会(坂本茂雄事務局長ほか)との懇談

5月10日(火)黒潮町・大西勝也町長会見(黒潮町役場)▼黒潮町万行地区津波避難タワー(情報防災課担当者の説明)▼黒潮町缶詰製作所 説明・見学▼上川口小学校 前田浩文校長▼中土佐町・中土佐町久礼津波避難タワー 池田洋光町長の説明

▼高知龍馬空港で解散  
参加…8人

# 対人地雷爆発の現場に遭遇 イラン・イラク戦争の最前線で

保田 龍夫



やすだ・たつお  
1943年生まれ 67年共同通信  
社入社 テヘラン支局長 ワシ  
ントン支局次長 ニュースセン  
ター副センター長など 2011年  
から15年まで(公財)新聞通信調  
査会「メディア展望」編集長

それまでの人生で「地雷」というものを意識することはなかったが、1983年8月11日を境に一変した。共同通信のテヘラン支局長だった私はこの日午後2時すぎ、イランの敵国イラク領を見下ろせる中西部メヘラン地区の高地を登っていた。

開戦から3年。戦況が大きく動いていたわけではないが、メヘラン地区はイラク首都のバグダッドの東約160<sup>キロ</sup>に位置する国境の山地で、主戦場の1つだった。ホメイニ体制下で、外国特派員を管理するイスラム指導省(情報省)は「対イラク戦争の前線取材をしよう」としない外国特派員に、滞在ビザの延長はできない」との姿勢で当時、7社各1人が常駐していた日本人記者も2回に1回くらいは、この前線視察ツアーに参加していた。

「ドーン」。上の方でずしんと腹にこたえるような音が響いた。一瞬、イラク軍から砲撃を食らったかと思いきや伏せた。だが、どうも様子が違う。内外の報道陣約20人の前線視察ツアーはこの時、先頭から私のいた最後尾まで約100<sup>メートル</sup>の長さに延びていた。先頭で何かが爆発したようだ。

直前に、引率していた情報省の若い職員が慌てた様子で、先頭を急ぐテレビクルーを速足で追いかけるのを目撃した。彼は坂道の中央に張られた白いテープからそれて、曲がり角で近道を取ったように見えた。

この後、私の記憶はしばらく飛ぶ。気づいたら、シャツが血でべっとり染まったロイター通信のインド人記者の両手両足を4人で持って、運び下ろしていた。朝日新聞の百瀬和元支局長が左肩を負傷したらしく、顔を

をしかめて、うずくまっている姿も見かけた。

この白いテープは2日前にイラク軍から奪還した高地に敷設されていた地雷をイラン軍が除去し、そこだけは安全に歩ける細い通路を指し示したものだ。太陽が少しでも高いうちに、西方のイラク領を撮影したいと焦るテレビクルーを追いかけた情報省職員が危険地帯に入り込み、対人地雷を踏んだもようだ。

地雷爆発による死者は情報省職員と、ロイター通信ニューデリー支局のナジムル・ハッサン記者の2人。負傷者は百瀬氏やANSA通信(イタリア)支局長ら3人に上った。

ハッサン記者は、英国人のテヘラン支局長がバカンス休暇で出国したカバーのため、3日前にイランに入国したばかりだった。この日、軍用

機で経由地に飛ぶ途中、隣席の彼と会話した。彼は5年前のイスラム革命時にイランの聖地コム近くで交通事故死した共同の竹沢護・元ニューデリー支局長を「いい男だった」としのんでいた。ニューデリーからのイラン取材は通信社に2つの不幸をもたらした。

## ◆非人道的な対人地雷

どうして、この不幸な事態が起きたのか。直接の原因は、兵役体験を欠いていたというこの情報省職員の無謀な行為だが、遠因は取材現場への到着がいつになく遅れ、逆光を嫌うテレビクルーが焦ったことだ。イランには正規軍と革命防衛隊という2つの軍事組織が今も並立している。この日、報道陣をどの高地へ案内すべきかで、ガイド役の両組織責



イラク軍の攻撃で炎上するイランのノールーズ海中油田のリグ。左手前の黒い海面は流出原油 (1983年4月12日/共同通信社提供)

任者が口論し、目的地がなかなか定まらなかった。前線視察ツアーは既に4、5回目だった私は「今日は案内が不安定で危険度が高い」と判断し、意識的に最後尾を歩いていた。

爆発した対人地雷はどういう構造だったのか。日本大使館の藤井建吉防衛駐在官は「地表のセンサーに触れると、地中から地表に跳ね上がって高さ1メートルくらいで爆発し、広範囲に鉄片や鉄球を飛散させるもの」と推定した。地雷は地下で爆発するものと思ひ込んでいた私は、その恐ろしさに衝撃を受けた。「跳躍地雷」(ボンピング地雷)と言うらしい。そういう構造だからこそ、多数の死傷者が出るのだ。

日本に帰国後、カンボジア内戦を取材し、ピュリツァー賞を受けたニ

ューヨーク・タイムズ紙記者の実話に基づく映画「キリング・フィールド」(84年)を見た。後半で主人公のカンボジア人助手に連れられてポル・ポト派から逃れようとした少年が、ジャングルで地雷のセンサーに触れて、恐怖の表情を浮かべる。結局、爆死するのだが、そのシーンが脳裏から離れなかった。

英国のダイアナ皇太子妃が対人地雷の廃絶運動に身をささげ、日本では97年に外相に就任した小渕恵三氏が外務省の強い反対を押し切って対人地雷全面禁止条約を締結したことは特筆される。

#### ◆石油リグ炎上の特ダネ写真を入手

83年3月初めにペルシャ湾にあるイランのノールーズ海中油田をイラク軍が空爆し、油井(リグ)が炎上。大量の原油がペルシャ湾に流出し、湾岸諸国を巻き込む大騒ぎになった。

しばらくして、イラン人のあるカメラマンから生々しい現場のカラー写真を入手した。国内では発表不可の写真という。小躍りしたものの、カラー写真の電送機など夢の時代で、共同本社に送るすべがない。とりあえず最も近いウィーン支局に届けて、あとは任せようと、国営イラン航空のパイロットにつてを頼って

託すことにした。

ところがウィーンの榎彰支局長から「空港に受け取りに行ったが届いていない」と電話がかかってきた。手の打ちようもなく、じりじり待つこと数日。本社の写真部から「届いた!」との電話がかかってきた。

ウィーンに送りだしたはずの写真がどうやって本社に届いたのか今でも不思議だが、どうやらこういうことらしい。イラン航空のパイロットたちが知人から託された荷物を受け取るメヘラバード空港のボックスで、東京行き便のパイロット(この人にはつてがなかった)が問題の封筒を見つけ、自分が直接届けてやろうと気を利かせて持ち去った! イラン人にはこのように、お節介で親切な人が結構多いのだ。この写真は4月18日付の共同の加盟紙を飾った。

#### ◆「日本人は原爆投下を忘れるのか」

イランには多数派のペルシャ人(61%)のほかクルド人など少数民族も多い。82年秋にテヘランの街中を歩いていたら、アルメニア人のキリスト教教会に多数の信徒が集まっているのが目に留まった。何事かと若者の信徒に尋ねたら「オスマン帝国によるアルメニア人虐殺に抗議し、犠牲者を悼む集いだ」と言う。

「アルメニア人虐殺」というのは、第1次世界大戦中の1916年にオスマン帝国(トルコの前身)内で少数民族アルメニア人が強制移住などにより多数殺害されたとされる事件。アルメニア人がこの事件を「ジェノサイド」(民族大量虐殺)として弾劾している歴史的重みをよく知らなかった私は、思わず若者に「そんな昔の事件をいまだに問題にするのか」と問い返してしまった。

すると彼は「では、日本人はアメリカによる原爆投下の惨禍を忘れ去ることができるのか?」と静かに反論してきた。その時、私の感じた「居心地の悪さ」を今でも思い出す。広島、長崎の市民20数万人を無差別に殺害した原爆投下。それを行ったアメリカを憎みもせずに友好関係が続けているらしい日本という国が、このアルメニア人若者に不可思議な存在に映るのも無理はないなと思った。

「アルメニア人虐殺」は中東地域に今も残るトゲの1本である。アルメニア側は事件で150万人が犠牲になったと主張、トルコ政府は「民族衝突の結果」だとして、意図的な虐殺を否定している。欧州諸国でもスイス、フランスなどが「ジェノサイド」と認定し、それを否定する発言を刑法で禁じている。

私が会った  
あの人

## 好漢、早世を惜しむ

## 元財務次官の香川俊介さん

吉田 文和（共同通信社）

あまりに早すぎる別れだったから、いささかの迷いがある。一方、だからこそ記憶が鮮明なうちに書いておくべきだとも思う。昨年8月9日、財務次官を退職後、1カ月余りで死去した香川俊介さんのことだ。重層かつ多彩な彼の人物のごく周縁部に属するに過ぎない筆者ではあるが、人物像の一端を紹介する役割を果たしたい。

知り合ったのは、竹下内閣の時。官房副長官だった小沢一郎さんのもとに旧大蔵省から送り込まれた秘書官が香川さんだった。

ふてぶてしく、そのくせかわいげがある。懐の深い役所だから、強面の小沢さんに仕えるには、知恵ばかりではなく愛嬌と俠気を兼ね備えた人材でなければ持たないと判断したのだろう。小沢番記者は30代半ばが中心で、30代に入ればかなりの香川さんは弟分のように

な役回りだった。機敏にしてのりを超えず。小沢さんに気に入られ、外務省派遣の現マレーシア大使、宮川真喜雄さんと絶妙の秘書官コンビだった。われわれとも小沢さんを中心に濃密な時間を共有する戦友、同志ののりだった。

ワシントン勤務中の1997年、ロンドンのヒースロー空港の雑踏で偶然、再会し、彼との不思議な縁を一層強く感じた。お互い「えー、何しているの」。底光りのする目を丸くして笑みを浮かべた。そんなこともあり、当方の勝手なご縁意識で、帰国後も、いろんな場面で彼の人脉、見識に助けられた。



香川俊介氏

小沢さんは早くから「香川は偉くなるぞ」と予言していた。エリート官僚につ

きものの秀才くさは毛筋も見せなかったから、正直、小沢評はぴんときなかつた。主計局長、次官として消費税率引き上げまで持っていたパワーを見よ。秘めた実力を見抜けなかつた眼力不足を恥じる。

良くも悪くも小沢さんとの近さが香川さんの官僚人生に陰影を落としていた。小沢さんの全盛時には「若手の政治家が、こわごとと見るんですよ。言いつけられると思っっているのかなあ」と面白がっていた。酒席では「虎のように怖かったですよ」と小沢話で盛り上がるのが約束だった。だが虎の威を借りるような人ではなかつた。むしろ自民党政権下で嫌なことの方が多かったのではないか。

めったに愚痴を言わなかったが、小泉政権以降、自民党幹部から事あるごとにたたかれた。比類ない人脉の幅と深さゆえに警戒されたのだろう。「もう辞めてやろうかな、来てくれという人もいるし」と民間への転身を漏らしたことすらあった。官僚に誇りを持っていたから逃げなかつたのだろう。消費税率引き上げ反対に転じた小沢さんに対しても、役人としての筋を通していた。

昨年6月26日、次官室に訪ねた。机にちんまりと座っている姿に言葉を失った。「死ぬかもしれない」と切り出され「人生、理不尽だね」と慰めにもならない言葉を漏らすと「そんなことないよ。ここまでやれたんだから」。密度の濃い官僚道だったと思う。

「退官まで頑張る。（小沢）先生に挨拶に行かないといけないなあ」と問わず語りに語った。「疲れた」と沈み込むような声を潮に部屋を後にした。

昨年9月30日、青山葬儀所でのお別れの会は、近年、政官界関係では記憶がないほどの参列者であふれていた。初めてお会いした奥様らご家族に一礼しながら思い起こした。「娘は歴女なんだ」。激務の合間を縫ってお嬢さんと楽しんだ歴史めぐりの道中をうれしそうに語っていたことを。

（よしだ・ふみかず 共同通信会館代表取締役専務 元共同通信社常務理事）

次号は龍崎孝さん（TBSテレビ出身）にバトンが渡ります。

最後まで画面にくぎ付けだった。何しろ、世界を震撼させた事件である。米国家安全保障局（NSA）の不正を暴露した元CIA職員・スノーデン氏本人の告発から公表に至る取材過程を克明に記録した同時進行ドキュメンタリーでありながら、サスペンスタッチの映像作品に仕立てた手腕には敬服せざるを得ない。

## シチズンフォー スノーデンの暴露



### 取材過程を克明に 説得力あるドキュメンタリー

外信部デスクとしてこのニュースに接した当時は多くの疑問があったが、香港でのインタビューや脱出の過程をリアルに見せつけられ、どういう経緯でニュースが発信されたのかをあらためて知ることができた。国家を「裏切った」スノーデン氏の評価は難しい。冷静に見なければと思いつつ、取材当事者による気迫

のこもった映像に思わず、強く共感してしまった自分がいた。

最後の場面。スノーデン氏が暮らすモスクワのアパートの位置は、遠景のクレムリンと足元のモスクワ川を見れば、かつて現地に駐在した経験からおおよそ想像がつく。そこでさらに、ドイツの米軍基地が無人機によるアフガニスタン攻撃の拠点にされているという新たな「特ダネ」が暴露される。思わず興奮したが、実は昨年4月にネット情報誌「インターセプト」で報じられていたと後から知った。日本では話題にならなかったが恥じ入るしかない。

今は「パナマ文書」が世界を震撼させている。内部告発による「タレ込み」をジャーナリストがどうすくい上げるか。私のようなアナログ記者には難しいネット情報の世界を、誰にでも伝わるように映像化した。数々の授賞はその説得力にあるのだろう。

それでもなお違和感が拭えないのは、米政府の不正を告発したスノーデン氏が、市民社会を弾圧しているロシアに庇護されているという皮肉な現実である。

毎日新聞社論説委員 大木 俊治  
シチズンフォー スノーデンの暴露はか全国順次公開

## マイBOOK マイPR

### ■ 版画でたどる万葉さんぽ

宇治 敏彦（毎日新聞社相談役）

「心のふるさと」を彫る 約4500首の歌が掲載されている日本最古の国民歌集・万葉集を版画に彫り始めてから40年たった。7年前に『木版画 萬葉秀歌』を上梓したが、今回はカラー版画やペン画も加えて約100首を紹介。万葉集の約7割は恋の歌だが、1300年以上も前の私たちの先祖が、こんなにも繊細かつ情熱的で、さらに心の伝え方が高い芸術性を持っていたことに驚かされる。心の豊かさが失われている今日、拙著を通じて大和人の心情と知恵に接していただければ幸いです。



新評論 1944円

### ■ 米中抗争の「捨て駒」にされる韓国

鈴置 高史（日本経済新聞社編集委員）

米中のほざまでフリーズする朴槿恵外交 シリーズ8冊目です。これまでの7冊は米陣営を離れ、急速に中国に傾斜する韓国を描いてきました。しかし、潮目が変わりました。中国米国が二股に怒り出しました。中国

も、北朝鮮の核武装が着々と進むのに韓国の期待ほどには助けてくれません。そのうえ米中朝が米朝平和協定の締結に動きます。軍事力も外交力も乏しい韓国は蚊帳の外に。この苦境を打開するには核武装しかない――との声が韓国の政治家やメディアの間で高まっています。



日経BP社 1512円

### ■ 世界経済大乱（日経プレミアシリーズ）

滝田 洋一（日本経済新聞社編集委員）

経済大乱の現場報告 昨年6月、中国株バブルが崩壊するさなか、上海で現地の経済学者やエコノミストと議論した。彼らのバブル懸念は本物だった。今年1月、円高・株安が加速したとき、ヘッジファンドや政策当局者の雰囲気は、切羽詰まっていた。3月にフランスで会った銀行経営者たちは、声を潜め過剰規制を語っていた。米国ではトランプ氏とサンダース氏の政策の類似性を聞いた。世界経済の大乱を現場を見て、聞いて、記した。ご笑覧たまわれば、幸いです。



日本経済新聞出版社 918円

かつて自民党本部が置かれ、田中角栄氏、中曽根康弘氏など首  
相経験者も事務所を構えた「砂防会館」が老朽化に伴う建て替え  
のため、3月に閉鎖されました。政治記者の熱い取材拠点で  
もあった同会館の思い出深い記憶を振り返っていただきました。

訪れた竹下氏に  
厳しくクギを刺  
す。だが、その  
場の元首相のひ  
と言が皮肉にも  
竹下氏の決意を

今もあの日を思い出すと軽い興奮  
を覚える。1985年2月7日。早  
朝から東京・平河町の「砂防会館別  
館」前には時ならぬカメラの放列。  
この日の主役は竹下登蔵相(当時)  
だ。最大最強の派閥といわれた木曜  
クラブ(田中派)内に自らの政策集  
団「創政会」の旗揚げを決断、その  
発会式が3階の派閥事務所で行われ  
ることになっていた。派閥のオーナ  
ーの田中角栄元首相は、あいさつに



創政会発会式のため砂防会館に到着した竹下氏を各社の  
政治記者が追う 左が筆者(1985年2月7日/堀田喬氏提供)

田中氏は83年、ロッキ  
ード裁判で懲役4年、追徴金  
5億円の有罪判決を受け、  
控訴中の刑事被告人でもあ  
った。84年10月の総裁選を  
めぐっては田中氏の側近だ  
った自民党の二階堂進・元  
副総裁が党長老と公明、民  
社の両党幹部と意を通じ  
て中曽根康弘首相の追い  
落としを企図した「二階  
堂擁立劇」に遭遇したば  
かり。しかも二階堂擁立  
劇を收拾した論功で、竹  
下氏の盟友・金丸信氏が  
自民党幹事長に就任した  
ことも田中氏にとって大  
きな誤算だった。

危機感を抱いた田中氏は創政会  
結成を容認したもの、あくまで  
も派内の「政策勉強会」との位置  
付けにこだわった。このため田中

## 壁に刻まれた刀傷

■後藤 謙次(共同通信社客員論説委員)

氏の秘書・早坂茂三氏が調整役とな  
り、砂防会館内の派閥事務所で発会  
式を行うことで折り合いを付けた。  
しかし、どんなに形式を取り繕った  
ところで派内クーデターであること  
に変わりはない。

創政会結成直前に東京・目  
白台の私邸で会った田中氏が  
昼間からオールドバーをあお  
っていた姿は今も忘れられな  
い。この角栄氏の意向を反映  
して創政会参加メンバーへの  
切り崩しは血しづきが飛ぶよ  
うな激しさがあった。

そして迎えた発会式当日。  
竹下氏は東京・代沢の私邸か  
らパトカーに先導されて砂防  
会館に到着した。注目は参加  
議員数の1点。創政会事務局  
長に就任した梶山静六氏は手  
帳に、こう記した。

「創政会発会式。出席者は  
四十名。衆院二十九名、参院  
十一名。安どした」

それからわずか20日後、田  
中氏は脳梗塞で倒れ、政治生  
命を失った。さらに派内の対立抗争  
は約2年にわたって続き、最終的に  
竹下派と二階堂グループに分裂す  
る。双方とも派閥継承の正統性を担  
保するため派閥事務所の継続使用を

主張した。

そこに割って入ったのが「じいさ  
ん」の愛称で親しまれた元自民党副  
総裁の西村英一氏。西村氏は初代田  
中派会長で砂防会館を運営する砂防  
協会長も田中氏から引き継いだ。田  
中氏にとって名実ともに精神的支柱  
であり、砂防会館のシンボリック存在  
だった。西村氏の裁断は「喧嘩両成  
敗」。竹下、二階堂のグループ双方  
から事務所の鍵を取り上げ、締め出  
したのだった。この時点で田中派の  
牙城ともいわれた砂防会館を舞台に  
した権力の攻防劇は幕を閉じた。

竹下氏が激しい権力闘争の末に首  
相の座に上り詰めたのはそれから間  
もない87年11月。さらに竹下氏から  
政権を引き継いだ宇野宗佑氏も砂防  
会館本館に事務所を構えていた。実  
に砂防会館が輩出した首相は4氏を  
数える。そして老朽化が進む本館の  
建て替えを決断したのも、かつて田  
中派に属した綿貫民輔・現砂防協会  
長(元衆院議長)だ。

「東日本大震災があり、窓も割れ  
て建て替えもやむを得ない」  
まさに「兵どもが夢の跡」。砂防  
会館の壁に刻まれた「刀傷」を知る  
政治家も政治記者も、年々減ってい  
く。  
(ことう・けんじ)

# 日本記者クラブ賞・同特別賞贈賞式 懇親会

5.25

2016年度日本記者クラブ賞・同特別賞の贈賞式が5月25日(水)午後5時半から、10階レストラン・アラスカで行われた。クラブ賞の尾崎真理子さん(読売新聞社)と特別賞の堀川恵子さんに伊藤芳明理事長から表彰状と副賞が贈られた。

あいさつに立った尾崎さんは宮崎日日新聞記者だった父と過ごした少女時代のエピソードや、記者を志したきっかけを紹介。東京タワーを高

度成長時代の象徴として描いた映画「ALWAYS三丁目の夕日」を例に出し、「地方で育った私のオールウェイズは『新聞のある風景』だった」と述べ、「新聞が毎日届く喜びを、たやすく手放す最近の風潮を残念に思う。活字文化の豊かさを文芸記者としてこれからも書き続けていきたい」と結んだ。

堀川さんはまず、贈賞式の翌々日に控えていたオバマ米大統領の広島

訪問を挙げ、「広島生まれの記者として原爆を長く追ってきた。深い感動と静かな祈りのような思いでいる」と語った。「『原爆供養塔』をはじめ、これまで携わってきたどの取材も完璧にやり切ったと言えるものはひとつもない」と、今後も精力的に取材活動が続けていく決意を話した。

パーティーには約190人が参加。歴代受賞者やクラブ運営に携わる理事・委員、各社のOB・OG会員も多く出席し交流を深めた。



クラブ賞・尾崎真理子さん(中央)を囲んで 松岡享子・東京子ども図書館名誉理事長(左)と岸田節子・かつら文庫初代お姉さん。かつら文庫は児童文学者・石井桃子さんが自宅を開放して始めた小さな図書館。読み聞かせをするボランティアが「お姉さん」と呼ばれた



特別賞・堀川恵子さん(中央)と語る三好範英(左)、綿飼哲夫の両読売新聞記者



伊藤芳明理事長(中央)と土生修一(左)、中井良則の新・旧専務理事。贈賞式に先立ち行われた理事会でバトンタッチ



元理事長の斎藤史郎氏(左)と滝鼻卓雄氏もお祝いに



●会議報告

●第88回定時社員総会

(5・25 会見場)  
書面議決社員を含め出席社員計118社の出席をもって成立(定足数69社)、定款25条の定めに従い、伊藤理事長が議長になり議事を進めた。

2015年度の事業報告(今号付録・同収支決算(詳細2次)、別表参照)の理事会案を議決した。続いて役員の一部交代(別掲)を承認した。

●第584回理事会 (5・25 会見場)

板野氏の後任副理事長に荒木裕志NHK理事・報道局長を、中井氏の後任専務理事に土生修一日本記者クラブ事務局長(兼務)を選定した。また、中井前専務理事に顧問を委嘱した。

出席 伊藤理事長、水谷、荒木の両副理事長、土生専務理事、西村、増田、原田、飯塚、渡邊、田辺、矢島、深田、藤井、菅生、袴田、篠塚、西淵、吉次、吉田、荻岐、村川、川嶋、木村、西野の各理事。沖永、林、二木の各監事。

●第373回会報委員会

(5・11 大会議室)

新委員の大辻一晃・共同通信社地域報道部長(旧・高橋茂氏)、井上洋一・TBSテレビ報道局取材・災害担当局長(旧・向山明生氏)が挨拶した後、6月号の編集について協議した。

●第463回企画委員会

(5・13 10階Bホール)

新委員の鶴原徹也・読売新聞社編集委員(旧・秦野るり子氏)が挨拶した後、今後のクラブゲスト候補を協議した。

出席 西村委員長、恵村、倉重、鶴原、脇、実、別府、宮田、杉田、川上、軽部、加藤、山本、瀬口、島田、播摩、小栗、川村、和田、ワグナー、梶本、橋場の各委員。

●第465回会員資格委員会

(5・19 小会議室)

6月1日付入会を審議し、理事会に答申した。

出席 増田委員長、越中、井上、山本の各委員。

●第222回施設運営委員会

(5・31 小会議室)

新委員の海保真人・毎日新聞社編集局次長(旧・野村隆宏氏)、関朋子・日本経済新聞社総務局次長(旧・竹内敏氏)、堅田正剛・高知新聞社東京支社長(旧・須賀仁嗣氏)が挨拶した後、2015年度の会議室の売り上げと16年4月の貸室利用状況と飲食売り上げを事務局が報告した。

出席 西淵委員長、海保、関、堅田、林、吉澤、富田、羽原の各委員。

理事交代

読売新聞社

(新) 増田雅己 東京本社取締役論説委員長

(旧) 小田 尚

テレビ東京

(新) 吉次弘志 報道局長

(旧) 加増良弘

第582回理事会(4・22)で承認済み

日本放送協会

(新) 荒木裕志 理事・報道局長

(旧) 板野裕爾

日本記者クラブ

(新) 土生修一 事務局長

(旧) 中井良則

貸借対照表 2016年3月31日現在

(単位:円)

| 科 目               | 2015年度      | 2014年度        | 増 減         |
|-------------------|-------------|---------------|-------------|
| <b>I 資産の部</b>     |             |               |             |
| 1.流動資産            |             |               |             |
| 現金預金              | 45,798,450  | 63,960,928    | △18,162,478 |
| 仮払金               | 250,108     | 22,879        | 227,229     |
| 立替金               | 6,347,220   | 5,071,041     | 1,276,179   |
| 未収会費              | 5,747,000   | 6,784,500     | △1,037,500  |
| 未収貸室料             | 2,362,377   | 938,009       | 1,424,368   |
| 前払金               | 11,481,752  | 11,637,421    | △155,669    |
| 流動資産合計            | 71,986,907  | 88,414,778    | △16,427,871 |
| 2.固定資産            |             |               |             |
| (1)特定資産           |             |               |             |
| 退職準備積立預金          | 128,937,036 | 158,298,021   | △29,360,985 |
| 特別修繕積立預金          | 164,973,032 | 158,165,424   | 6,807,608   |
| 特別記念事業積立預金        | 55,000,000  | 44,000,000    | 11,000,000  |
| 特別システム更新積立預金      | 62,318,782  | 25,318,782    | 37,000,000  |
| クラブ賞積立預金          | 210,957,246 | 210,957,246   | 0           |
| 経営安定化資金積立預金       | 210,414,561 | 229,179,392   | △18,764,831 |
| 特定資産合計            | 832,600,657 | 825,918,865   | 6,681,792   |
| (2)その他固定資産        |             |               |             |
| 内装設備              | 5,378,352   | 6,196,694     | △818,342    |
| 什器備品              | 2,878,537   | 4,830,994     | △1,952,457  |
| ソフトウェア            | 1,193,389   | 1,643,245     | △449,856    |
| 敷金                | 75,938,403  | 32,271,109    | 43,667,294  |
| 保証金               | 0           | 55,342,000    | △55,342,000 |
| その他固定資産合計         | 85,388,681  | 100,284,042   | △14,895,361 |
| 固定資産合計            | 917,989,338 | 926,202,907   | △8,213,569  |
| 資産合計              | 989,976,245 | 1,014,617,685 | △24,641,440 |
| <b>II 負債の部</b>    |             |               |             |
| 1.流動負債            |             |               |             |
| 仮受金               | 985,100     | 1,376,900     | △391,800    |
| 未払金               | 9,424,309   | 7,798,207     | 1,626,102   |
| 流動負債合計            | 10,409,409  | 9,175,107     | 1,234,302   |
| 2.固定負債            |             |               |             |
| 退職準備引当金           | 128,937,036 | 158,298,021   | △29,360,985 |
| 固定負債合計            | 128,937,036 | 158,298,021   | △29,360,985 |
| 負債合計              | 139,346,445 | 167,473,128   | △28,126,683 |
| <b>III 正味財産の部</b> |             |               |             |
| 1.指定正味財産          |             |               |             |
| 指定正味財産合計          | 46,872,328  | 46,872,328    | 0           |
| 2.一般正味財産          |             |               |             |
|                   | 803,757,472 | 800,272,229   | 3,485,243   |
| 正味財産合計            | 850,629,800 | 847,144,557   | 3,485,243   |
| 負債及び正味財産合計        | 989,976,245 | 1,014,617,685 | △24,641,440 |

## 日本記者クラブ 正味財産増減計算書内訳表

自 2015年4月1日 至 2016年3月31日

(単位:円)

| 科 目                   | 公益目的事業会計     |             |             |               |             | 収益事業等会計     | 法人会計       | 合計          |
|-----------------------|--------------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|------------|-------------|
|                       | 公1<br>記者会見等  | 公2<br>クラブ賞  | 公3<br>会報・HP | 共通            | 小計          |             |            |             |
| I 一般正味財産増減の部          |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 1.経常増減の部              |              |             |             |               |             |             |            |             |
| (1)経常収益               |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 特 定 資 産 運 用 益         |              | 270,111     |             | 859,879       | 1,129,990   |             |            | 1,129,990   |
| 受 取 会 費               |              |             |             | 253,186,362   | 253,186,362 |             | 71,411,538 | 324,597,900 |
| 法 人 会 員 会 費 収 入       |              |             |             | 156,865,800   | 156,865,800 |             | 44,244,200 | 201,110,000 |
| 個 人 会 員 会 費 収 入       |              |             |             | 56,668,794    | 56,668,794  |             | 15,983,506 | 72,652,300  |
| 賛 助 会 員 会 費 収 入       |              |             |             | 39,651,768    | 39,651,768  |             | 11,183,832 | 50,835,600  |
| 事 業 収 益               |              |             |             |               |             | 66,234,463  |            | 66,234,463  |
| 貸 室 料 収 入             |              |             |             |               |             | 42,350,588  |            | 42,350,588  |
| 飲 食 売 上 割 戻 し         |              |             |             |               |             | 17,981,425  |            | 17,981,425  |
| 施 設 機 器 賃 借 料         |              |             |             |               |             | 5,902,450   |            | 5,902,450   |
| 雑 収 益                 |              |             |             | 8,448         | 8,448       | 142,215     | 1,014      | 151,677     |
| 受 取 利 息               |              |             |             | 8,448         | 8,448       | 1,802       | 1,014      | 11,264      |
| そ の 他 の 雑 収 入         |              |             |             |               |             | 140,413     |            | 140,413     |
| 受 取 入 会 金             |              |             |             | 117,000       | 117,000     |             | 33,000     | 150,000     |
| 個 人 会 員 入 会 金         |              |             |             | 117,000       | 117,000     |             | 33,000     | 150,000     |
| 経 常 収 益 計             |              | 270,111     |             | 254,171,689   | 254,441,800 | 66,376,678  | 71,445,552 | 392,264,030 |
| (2)経常費用               |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 事 業 費                 | 157,760,437  | 17,112,941  | 46,203,729  | 55,515,550    | 276,592,657 | 49,496,540  |            | 326,089,197 |
| 借 室 維 持 費             | 73,824,880   |             |             | 55,515,550    | 129,340,430 | 24,412,440  |            | 153,752,870 |
| 借 室 料                 | 38,440,963   |             |             | 24,025,602    | 62,466,565  | 19,220,482  |            | 81,687,047  |
| 共 益 費                 | 6,846,149    |             |             | 4,278,843     | 11,124,992  | 3,423,074   |            | 14,548,066  |
| 空 調 ・ 光 熱 費           | 3,537,768    |             |             | 2,211,105     | 5,748,873   | 1,768,884   |            | 7,517,757   |
| ホ ー ル 専 用 利 用 費       | 25,000,000   |             |             | 25,000,000    | 50,000,000  |             |            | 50,000,000  |
| 人 件 費                 | 62,470,112   | 14,975,768  | 22,363,874  |               | 99,809,754  | 24,334,673  |            | 124,144,427 |
| 役 員 報 酬               | 6,800,000    | 1,360,000   | 5,440,000   |               | 13,600,000  |             |            | 13,600,000  |
| 給 与 金                 | 37,131,540   | 9,604,424   | 11,735,993  |               | 58,471,957  | 17,190,404  |            | 75,662,361  |
| 賞 与 ・ 諸 手 当           | 18,168,572   | 3,904,344   | 5,062,881   |               | 27,135,797  | 6,963,269   |            | 34,099,066  |
| 厚 生 費                 | 370,000      | 107,000     | 125,000     |               | 602,000     | 181,000     |            | 783,000     |
| 事 業 費                 | 19,485,473   | 2,137,173   | 23,839,855  |               | 45,462,501  |             |            | 45,462,501  |
| 会 議 費                 | 1,755,866    | 67,533      | 427,711     |               | 2,251,110   |             |            | 2,251,110   |
| 事 業 運 営 費             | 15,803,259   | 607,818     | 3,849,512   |               | 20,260,589  |             |            | 20,260,589  |
| 会 報 発 行 ・ H P 運 営 費   |              |             | 11,194,030  |               | 11,194,030  |             |            | 11,194,030  |
| ク ラ ブ 賞 実 施 費         |              | 1,124,075   |             |               | 1,124,075   |             |            | 1,124,075   |
| 写 真 電 子 化 費           |              |             | 6,991,213   |               | 6,991,213   |             |            | 6,991,213   |
| 運 営 雑 費               | 294,190      | 11,315      | 71,662      |               | 377,167     |             |            | 377,167     |
| 通 信 費                 | 1,109,699    | 221,940     | 887,759     |               | 2,219,398   |             |            | 2,219,398   |
| 印 刷 費                 | 451,526      | 90,305      | 361,221     |               | 903,052     |             |            | 903,052     |
| 交 通 費                 | 70,933       | 14,187      | 56,747      |               | 141,867     |             |            | 141,867     |
| 減 価 償 却 費             | 1,979,972    |             |             |               | 1,979,972   | 749,427     |            | 2,729,399   |
| 管 理 費                 |              |             |             |               |             |             | 62,689,590 | 62,689,590  |
| 借 室 維 持 費             |              |             |             |               |             |             | 18,309,331 | 18,309,331  |
| 借 室 料                 |              |             |             |               |             |             | 14,415,361 | 14,415,361  |
| 共 益 費                 |              |             |             |               |             |             | 2,567,306  | 2,567,306   |
| 空 調 ・ 光 熱 費           |              |             |             |               |             |             | 1,326,664  | 1,326,664   |
| 人 件 費                 |              |             |             |               |             |             | 22,477,794 | 22,477,794  |
| 役 員 報 酬               |              |             |             |               |             |             | 2,400,000  | 2,400,000   |
| 給 与 金                 |              |             |             |               |             |             | 13,277,905 | 13,277,905  |
| 賞 与 ・ 諸 手 当           |              |             |             |               |             |             | 6,677,192  | 6,677,192   |
| 厚 生 費                 |              |             |             |               |             |             | 122,697    | 122,697     |
| そ の 他 の 管 理 費         |              |             |             |               |             |             | 20,838,129 | 20,838,129  |
| ク ラ ブ 管 理 費           |              |             |             |               |             |             | 15,468,136 | 15,468,136  |
| 機 器 備 品 費             |              |             |             |               |             |             | 822,882    | 822,882     |
| 消 耗 品 費               |              |             |             |               |             |             | 1,188,113  | 1,188,113   |
| 事 務 委 託 費             |              |             |             |               |             |             | 1,991,676  | 1,991,676   |
| 事 務 雑 費               |              |             |             |               |             |             | 551,242    | 551,242     |
| 通 信 費                 |              |             |             |               |             |             | 554,850    | 554,850     |
| 印 刷 費                 |              |             |             |               |             |             | 225,764    | 225,764     |
| 交 通 費                 |              |             |             |               |             |             | 35,466     | 35,466      |
| 減 価 償 却 費             |              |             |             |               |             |             | 1,064,336  | 1,064,336   |
| 経 常 費 用 計             | 157,760,437  | 17,112,941  | 46,203,729  | 55,515,550    | 276,592,657 | 49,496,540  | 62,689,590 | 388,778,787 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額       | △157,760,437 | △16,842,830 | △46,203,729 | 198,656,139   | △22,150,857 | 16,880,138  | 8,755,962  | 3,485,243   |
| 当期経常増減額               | △157,760,437 | △16,842,830 | △46,203,729 | 198,656,139   | △22,150,857 | 16,880,138  | 8,755,962  | 3,485,243   |
| 2.経常外増減の部             |              |             |             |               |             |             |            |             |
| (1)経常外収益の部            |              |             |             |               |             |             |            |             |
| (2)経常外費用の部            |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 当 期 経 常 外 増 減 額       |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 他 会 計 振 替 額           |              |             |             | 3,682,294     | 3,682,294   | △3,682,294  |            |             |
| 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額 | △157,760,437 | △16,842,830 | △46,203,729 | 202,338,433   | △18,468,563 | 13,197,844  | 8,755,962  | 3,485,243   |
| 一 般 正 味 財 産 期 首 残 高   | △148,120,377 | △15,997,840 | △51,084,283 | 843,587,792   | 628,385,292 | 124,974,645 | 46,912,292 | 800,272,229 |
| 一 般 正 味 財 産 期 末 残 高   | △305,880,814 | △32,840,670 | △97,288,012 | 1,045,926,225 | 609,916,729 | 138,172,489 | 55,668,254 | 803,757,472 |
| II 指定正味財産増減の部         |              |             |             |               |             |             |            |             |
| 指 定 正 味 財 産 期 首 残 高   |              | 46,872,328  |             |               | 46,872,328  |             |            | 46,872,328  |
| 指 定 正 味 財 産 期 末 残 高   |              | 46,872,328  |             |               | 46,872,328  |             |            | 46,872,328  |
| III 正味財産期末残高          | △305,880,814 | 14,031,658  | △97,288,012 | 1,045,926,225 | 656,789,057 | 138,172,489 | 55,668,254 | 850,629,800 |



## 寄贈書

東日本大震災 原発事故から5年  
ふくしまは負けない 2011～2016



福島民報社  
1296円

福島民報社は東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から5年間の報道記録『東日本大震災 原発事故から5年 ふくしまは負けない 2011～2016』を発刊した。

同書は平成23年(2011)3月11日から今年3月11日まで激動の5年間の県内外の動きを、当時の写真を取り入れながら「ドキュメント」として詳細に収録。福島民報本紙に掲載した本県の現状を検証した「福島の今」、震災後に取材した人たちのその後を追った「それぞれの5年」、ひたむきに生きる人たちを紹介した「震災・原発事故5年」の一部を改編して収めた。

5年目となった今年3月11日の祈念式や追悼の様子、福島第一原発の現状などの写真も数多く取り入れた。

(福島民報社事業局出版部 清野 昭宏)

## 情報発信

### ■小林節氏 政治団体設立発表会見

安全保障関連法の廃止を訴えてきた憲法学者の小林節・慶応大名誉教授が、夏の参院選に向け政治団体「国民怒りの声」の立ち上げを発表した。基本政策として「言論の自由回復」や原発廃止も掲げた。(5.9 会見場)

### ■科学ジャーナリスト賞2016贈呈式

科学技術に関する報道や出版、映像などで優れた成果を挙げた個人を表彰している。2016年の受賞者と受賞作品は次のとおり。

〔科学ジャーナリスト大賞〕阿部豊・東大大学院理学系研究科准教授(著作『生命の星の条件を探る』)〔科学ジャーナリスト賞〕▶会川晴之・毎日新聞社北米総局長(連載「核回廊を歩く～日本編」および記事「日本の核技術流出、初確認」)▶近堂靖洋・NHK報道局ネット報道部長(当時・科学文化部専任部長)(NHKスペシャル「廃炉への道2015 “核燃料デブリ”未知なる闘い」など4件(5.12 10階ホール)

### ■安倍晋太郎氏を偲び安倍総理と語る会

安倍晋太郎元外相が亡くなって25年。当時の番記者や関係者などが命日に集まり、ほぼ毎年クラブで偲ぶ会を開催している。安倍晋三首相も出席した。(5.16 会見場)

### ■福祉フォーラム・ジャパン 討論会

「かかりつけ医」先進国である英国の事例を学ぶ講演会。家庭医療専門医の澤憲明氏による「プライマリ・ケアを考える～英国でのGPの取り組み」の基調講演などが行われた。(5.21 10階ホール)

### ■山本美香記念国際ジャーナリスト賞 授賞式

第3回受賞者はシリア内戦の取材を著した



## 新しいOB会員

河野 博子



1979年読売新聞入社。社会部次長、ニューヨーク支局長、編集委員など。現在、読売新聞社企画委員。

NYで特派員をしていた15年前に比べ、テロも移民問題もさらに深刻化してきた。日本社会も問題だらけ。引き続き注視していきたい。

関口 元朗



1974年日本経済新聞入社。日経ビジネス副編集長、日経金融新聞編集長、格付投資情報センター取締役格付本部長、同監査役など。

気が付けば会社人生活は四十有余年。残された自由な時間を大切に、あきれることが目につく世の中を、しっかりウオッチしていきたいと思います。

瀧山 誠



1968年フジテレビ入社。バンコク特派員、ニュース部担当部長、報道番組部長、編集委員などを務め2013年退社。

民主主義の原点、ギリシャ、ローマ時代より、匿名の投稿は無視された。それが現代は匿名メールが政治を動かす。目的は手段を選ばないのか考えたい。

中西 茂



1983年読売新聞入社。北海道支社編集委員兼東京本社論説委員、調査研究本部主任研究員など。現在、玉川大学学術研究所所属。

英国の元首相のように「教育！教育！！教育！！！」と訴え続けて四半世紀近く。教育記者に教員としての役割が加わり、これからは「！」4つです。

龍崎 孝



1984年毎日新聞入社。政治部などを経て94年に退社後、95年TBSテレビ入社。モスクワ支局長、政治部長など。現在、流通経済大学スポーツ健康科学部教授。

会員に加えていただき、身の引き締まる思いです。これからは主にスポーツという題材から政治のありようを考えていきたいと思っています。

『シリア 戦場からの声』の著者でジャーナリストの桜木武史氏。授賞式後は桜木氏と選考委員、佐藤和孝・山本美香記念財団代表理事によるシンポジウムも開かれた。(5.26 10階ホール)

### ■読売テクノ・フォーラム「ゴールド・メダル賞」受賞記念講演会

同賞は科学技術の分野で優れた成果を挙げた新進の研究者を表彰している。第22回受賞者の岡田随象・大阪大教授、菅裕明・東大教授、中村正人・宇宙科学研究所教授の3人が「科学の力で、世界を元気に」をテーマにそれぞれ講演した。(5.28 10階ホール)

### ■放送人政治懇話会

テレビ・ラジオ局の現役・OBらによる勉強会。5月は山本幸三・自民党衆院議員(5.11)、山尾志桜里・民進党政調会長(5.25)をゲストに招いた。

## レストラン\*価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 伊勢海老懷石(7/1まで)

先付: 焼き茄子雲丹乗せ、穴子八幡巻ほか お  
椀: 鮎魚女葛打ち 造り: 伊勢海老姿造り 焼物:  
鰯木の芽焼き 煮物: 伊勢海老具足煮 揚げ物: 太  
刀魚挟み揚げ 食事: 伊勢海老頭味噌椀、ご飯  
水菓子: 季節の果物 グラス冷酒付き(5,400円)  
(板長: 大井由光)

洋食 おすすめコース(6/30まで)

冷製フォアグラのフラン 白ワイン 蜂蜜風味、  
ヴィシソワーズまたはコンソメ、オマール海老の  
カダイフ包みフリット サフランライス添え、ト  
スサラダ、マンゴーモース、パン、コーヒー付き  
(3,780円)。ランチ、ディナー(土曜日はランチの  
み9階レストラン)ともにご利用いただけます。  
(シェフ: 黒須修一)

## レストラン・アラスカ 夜の半額サービス

毎年好評をいただいているアラスカ夜の半額  
サービスを今年も行います。8月中はディナー  
タイムの一般メニューを全て半額で提供しま  
す。お仲間、ご家族などでお楽しみください。  
ご利用の際は03-3503-2766まで予約をお願いし  
ます。

## 部屋代50%引き 夏の宴会プランをどうぞ

例年通り、8月はクラブの貸室料金が半額に  
なります。この期間限定で、お得な宴会プラン  
も用意します。洋食8品、和食(おそば)でお一  
人3,240円です。1,404円をプラスしてフリードリ  
ンク(2時間)にもできます。お問い合わせは  
03-3503-2724まで。

## <法人会員代表変更>

日経BP社

新実傑代表取締役社長(旧・長田公平氏)

## <訃報>

彌富鞆彦会員(ニッポン放送出身、87歳)が5  
月10日死去されました。謹んでご冥福をお祈り  
いたします。

 **HP更新情報** <http://www.jnpc.or.jp/>

## 私の取材余話 ベテラン会員によるエッセー

●「情報戦うら・おもて(パート5)潜水艦の売  
り込みやTPP交渉のカギは？」  
村上吉男会員(朝日新聞出身)

## 長野放送が入会しました

長野放送(フジテレビ系列)が再入会しまし  
た。登録会員は下記の方々です。7年ぶりのク  
ラブメンバー再加盟とともに、6月25日、プレ  
スセンター2階に東京支社が入居します。クラ  
ブの法人会員は134社、プレスセンタービルに  
東京支社を置く地方会員社は11社となります。  
外山衆司・代表取締役社長  
西條彰浩・東京支社長

## メールアドレスの登録を

急に開催が決まった会見の案内や日時の変  
更・中止などをすぐにお知らせできるよう、メ  
ールアドレスの登録をお願いしています。

お名前と会員番号を下記のアドレスにお送り  
ください。OB会員の皆様にも積極的な登録をお  
願いいたします。

✉ [kaiken@jnpc.or.jp](mailto:kaiken@jnpc.or.jp)

## ●日比谷カレッジ参加者がクラブを見学

5月30日、日比谷図書文化館が主催する  
市民プログラム「日比谷カレッジ」の一環  
として、「日本プレスセンターが眺めた日  
比谷と報道の世界40年」が開催された。催  
しには約60人が参加、春原昭彦会員(上智  
大学名誉教授)の講演を聞いた後、プレス  
センターに移動しラウンジや10階ホールな  
どを見学した。一般の方々にクラブの活動  
を知ってもらう機会となった。

## ●米国大学生もクラブ訪問

海外経験学習で来日した米国ノーステキ  
サス大学ジャーナリズム学部の学生20人が  
5月31日、クラブを訪ね、記者クラブの仕  
組みや日米のメディアについて懇談した。  
学生から「官庁の記者クラブに外国人は入  
れるか」「警察の無線は聞いているか」「電子  
版の課金はできているのか」「米国は日本以  
上に部数が減っているが私は記者になりたい。  
記者という仕事はどうなるだろうか」  
などの質問が出た。「私が新聞社に就職し  
た40年前にも新聞なんて未来がない、と友  
達に言われた。彼が就職した大銀行はなくな  
ったが、新聞はまだ存在している。ニュー  
スを必要とする読者はどの時代にもいるか  
ら、記者の仕事はなくなるらない」と、対応し  
た中井顧問が記者志望の学生を励ました。

## クラブの電話 ダイヤルイン

|                               |                                                                         |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| ●和食レストラン(9階)..... ☎3503-2723  | ●会員事務..... ☎3503-2727                                                   |
| ●洋食レストラン(10階)..... ☎3503-2766 | ●経 理..... ☎3503-2728                                                    |
| ●貸室予約、宴会打ち合わせ..... ☎3503-2724 | ●クラブ行事への申し込み..... ☎3503-2722                                            |
| ●受 付..... ☎3503-2721          | ●会見申し込みアドレス... <a href="mailto:kaiken@jnpc.or.jp">kaiken@jnpc.or.jp</a> |

## 会員現況

|                      |              |                |
|----------------------|--------------|----------------|
| ●法人会員: 134社          | ●基本会員: 745人  | ●個人会員: 1,308人  |
| ●法人・個人賛助会員: 63社・139人 | ●特別賛助会員: 99人 |                |
| ●名誉・功労会員: 12人        | ●学生会員: 136人  | 計: 197社・2,439人 |

## 会報委員会

委員長=飯塚 浩彦  
委 員=稲沢 裕子 井上 洋一 大辻 一晃  
大寺 廣幸 鈴木 仁 長崎 和夫  
藤井 良広 藤澤 秀敏 吉澤 正一  
渡辺 大祐

(事務局: 長谷川和子 村田 茜)

☎03-3503-2752 FAX 03-3503-7271

撮影：沢田 将人（東京新聞写真部）



G7サミットに先立ち、伊勢神宮内宮を訪れ参道を歩く安倍首相ら各国首脳 = 5月26日午前 三重県伊勢市

## 太陽神のルネサンス？

ロシアの哲学者タチアナ・グレゴリエーヴァさんを神社に案内したら「神様を殺さなかったのは素晴らしい。ロシアは神様を殺してしまいました」と言うのでびっくりした。彼女は熱心なクリスチャンだ。ロシアの深い森と大地には一神教の教義にはまりきらない豊饒な靈性があったのに、と言いたかったのだろうか。（原始の日本人が自然の神秘にのいた感動が、言葉・観念に置き換えられることなく伝えられ、神社には神の名を越えた存在への畏敬へと導く力がある）。日本人には当たり前の身体経験が、外国人には大発見なのだ。

イスラムへの憎悪に乗じてポピュリストが力を増し、まるで世界が引き裂かれたかのように見える。今、伊勢神宮は首脳たちに何を感じさせただろう。仏教学者の横山紘一さんは「すべての宗教のエッセンスは1つ、清らかさです。仏教は業を脱し、キリスト教は罪を許され清らかになる。神道は理屈なしに体で清らかさを追体験するのです」と言う。教義がないだけ、本来争いの材料になりにくいはずだ。

しかし現実の伊勢神宮は太古から政治的存在だったし、江戸時代の国学者によって世界の最高神に祭り上げられ、大戦中は神国信仰に利用された。地球にあまねく恵みをもたらす太陽神「天照大神は、小さな島国の神様として政治化されてしまった。もう一度、太陽神の普遍性を取り戻すことができるだろうか。ロンドンでは新市長に選ばれたバキスタン移民の子が、カテドラルでコーランによって就任宣誓をした。宗教の垣根を乗り越えられるかどうか、人類の未来がかかる時代なのだ。」（松浦 茂長）

2015年度事業報告(概要)

【戦後70年】と「3・11から5年」を軸に

公益社団法人日本記者クラブは2015年度、合計25回のプレス向け行事(オン・ザ・レコードの記者会見、昼食会、討論会・対談、研究会、記者ゼミ、記者研修会、取材団)を主催した。一般行事などを加えた行事の総数は278回となり過去最高を記録した。

日本記者クラブは日本全国の新聞、放送、通信社が集まり、政府からの援助は受けず、会費で運営する日本で唯一のナショナル・プレスクラブである。ジャーナリズムが共有する組織として、ニュースの当事者を招いて記者会見を主催する。会見で記者との質疑を通してゲストが情報を発信し、会員が報道し広く社会に伝わることで、国民の知る権利に資することを基本的な目的としている。

2015年度は、戦後70年であり東日本大震災から5年という年であった。2014年度に始めたシリーズ企画「戦後70年 語る・問う」を28回開催し、シリーズ総回数は42回となった。また首相談話が注目される中、村山富市元首相、河野洋平元官房長官による対談「戦後70年を語る」が2015年度で最多の323人の出席者を集めたほか、安保法制をめぐる多くの講師から話を聞くなど、タイムリーなテーマとゲストによる会見の開催に努めた。恒例の記者研修会も戦後70年を取り上げ、研修会参加者を中心に沖縄へ取材団を派遣した。

5年目を迎えた東日本大震災については、会員各社の震災5年企画の参考にしてもらうことを目的に、「3・11から5年」を立ち上げ、被災地の首長など16人のゲストから話を聞いた。さらに東京電力福島第一原発や岩手・福島・宮城へ取材団を3回派遣した。

ニュースの背景を多角的に掘り下げる研究会は、短期・長期の両面で活発に開催した。主なテーマは「変わるアメリカ 変わらないアメリカ 米大統領選」「チェンジ・メーカーズに聞く」「どうみるマイナス金利」「どうなる中国経済」「ドイツの戦後和解」「国連と日本人」などで、一部は2

016年度も引き続き行っている。

さまざまな現場を訪問する取材団・プレスツアーも積極的に開催した。ドイツの戦後和解を考える「ドイツ・イスラエル取材団」、北京と四川省を訪れた「中国取材団」の海外取材団のほか、「東京電力福島第一原子力発電所取材団」「沖縄取材団」「G7伊勢志摩サミット事前取材団」など過去最多の9回となった。

毎月発行しているクラブ会報は、全てのゲストの会見内容を紹介していた「クラブゲスト」面をプレス会見の増加に対応するため改革、ゲストを一覧できる「クラブゲスト」と、一部ゲストの会見内容を伝える「会見リポート」に分割して掲載、全ゲストの会見内容はウェブサイトで紹介することにした。ユーチューブではこれまでと同様にほぼ全ての会見動画を一般公開した。2015年度の掲載動画は221本に上った。

2015年度の日本記者クラブ賞は、読売新聞東京本社取締役論説委員の竹内政明氏に、特別賞は伊東英朗氏ならびに南海放送「X年後」制作グループに贈った。

第86回定時社員総会(2015・5・27)で第22期の役員(任期2年)が選任され、総会後に開かれた新役員による理事会は伊藤芳明氏(毎日新聞社)を理事長に再任し、副理事長に水谷亨氏(共同通信社)新任と板野裕爾氏(NHK)新任を、専務理事に中井良則氏(日本記者クラブ)再任をそれぞれ選定した。

2016年2月4日付で内閣総理大臣名の「税額控除に係る証明書」が発行され、法人賛助会員と特別賛助会員の会費は寄付として扱われ、法人税や所得税・都民税の税額控除が受けられるようになった。

2016年3月31日現在での会員数は、法人会員134社(対前年マイナス2社)、法人賛助会員65社(プラス3社)、会員総数2499人(プラス37人)。

行事リスト

【詳】はウェブサイト全文文字起こしの「会見詳録」を掲載  
開催日 参加者 記録

昼食会 7回

|                                |        |     |
|--------------------------------|--------|-----|
| 金高雅仁 警察庁長官                     | 6月29日  | 70  |
| 小林喜光 経済同友会代表幹事                 | 7月22日  | 82  |
| 程永華 駐日中国大使                     | 7月23日  | 156 |
| 宮内義彦 日本取締役協会会長【東芝不適切会計問題と企業統治】 | 8月18日  | 89  |
| マーク・トンブソン ニューヨーク・タイムズ社長兼CEO    | 9月25日  | 169 |
| シハサック・ブアンゲッゲオ 駐日タイ大使           | 9月30日  | 41  |
| エブゲーニー・アフアナシエフ 駐日ロシア大使         | 12月22日 | 64  |

記者会見 122回

|                                            |       |     |
|--------------------------------------------|-------|-----|
| 丹野純一 福島県立ふたば未来学園高校校長/南郷市兵 福島県立ふたば未来学園高校副校長 | 4月2日  | 27  |
| 小沼士郎 外務省アフリカ第一課交渉官                         | 4月3日  | 32  |
| チャールズ・リブキン 米国務次官補                          | 4月6日  | 81  |
| デイトミル・ブシャティ アルバニア外相                        | 4月7日  | 31  |
| アンヘル・グリア OECD事務総長                          | 4月15日 | 96  |
| 北側一雄 公明党副代表                                | 4月27日 | 78  |
| 翁長雄志 沖縄県知事                                 | 5月20日 | 238 |
| 東北六県 魂の酒まつり2015 発表会                        | 5月20日 | 46  |
| 山崎拓 元自民党幹事長【日米安保を考える2】                     | 5月21日 | 93  |
| 野口健 登山家【ネパール大地震報告】                         | 5月22日 | 71  |
| リカルド・ガルシア・ピラノバ 第2回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞者      | 5月25日 | 28  |
| 篠田正浩 映画監督【戦後70年 語る・問う17】                   | 6月1日  | 68  |
| ピーター・ピオット ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長【HIV/エイズ】      | 6月4日  | 30  |
| ベニグノ・アキノ フイリピン大統領                          | 6月5日  | 144 |
| 石破茂 地方創生担当相                                | 6月9日  | 147 |
| 村山富市 元首相/河野洋平 元官房長官【戦後70年を語る】              | 6月9日  | 323 |
| 山崎拓氏/亀井静香氏/武村正義氏/藤井裕久氏【安保法制反対声明発表】         | 6月12日 | 221 |

|                                    |                                  |       |     |
|------------------------------------|----------------------------------|-------|-----|
| マンガラ・サマラウィーラ                       | スリランカ                            | 6月19日 | 35  |
| 外相                                 |                                  |       |     |
| ヒューマン・ライツ・ウォッチ                     | ブラッド                             | 6月24日 | 42  |
| ・アダムス                              | アジア局長／土井香苗                       |       |     |
| 日本代表                               | 【日本の援助政策における人権保護調査の報告】           |       |     |
| 大西隆                                | 豊橋技術科学大学学長、日本学術会議会長              | 7月2日  | 77  |
| 【人口問題民間臨調 検証と提言】                   |                                  |       |     |
| 武富和彦                               | 沖縄タイムス編集局長／潮平                    | 7月2日  | 161 |
| 芳和                                 | 琉球新報編集局長                         |       |     |
| 柿沢未途                               | 維新の党幹事長／今井雅人                     | 7月6日  | 81  |
| 同政調会長／小野次郎                         | 同安全保障調査                          |       |     |
| 会長（幹事長代理）／丸山穂高                     | 同安全保障調査会事務局                      |       |     |
| 局長                                 | 【維新の党 安保法案に関する意見】                |       |     |
| 堀屋太一                               | 作家、アジア刑政財団会長                     | 7月14日 | 53  |
| 帳                                  | 『安全な国 日本』発表会                     |       |     |
| 三谷太一郎氏                             | 大沼保昭氏／毛里和子氏                      | 7月17日 | 118 |
| ／小此木政夫氏                            | 波多野澄雄氏／石田淳氏                      |       |     |
| 【戦後70年総理談話に関する歴史家、国際法学者、国際政治学者の声明】 | 【意見】                             |       |     |
| 森喜朗                                | 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長          | 7月22日 | 236 |
| レザ・ナザルハハリ                          | 駐日イラン大使                          | 7月23日 | 51  |
| 遠藤利明                               | 東京オリンピック・パラリンピック担当相              | 7月24日 | 120 |
| 鳥原光憲                               | 日本パラリンピック委員会会長                   | 8月5日  | 48  |
| シリル・ラマポーザ                          | 南アフリカ副大統領                        | 8月25日 | 70  |
| 領                                  |                                  |       |     |
| 【料理ボランティアの会と福島スライツ・アフタースンティー       | 中村勝宏 洞爺湖サミット総料理長、日本ホテル統括名        | 8月29日 | 50  |
| 誉総料理長／山本益博氏                        | 渡辺幸裕 料理ボランティアの会事務局               |       |     |
| 長／山下春幸                             | HAJ YAMASHITA東京エグゼクティブシエフ        |       |     |
| ／望月完次郎                             | 帝国ホテル東京シェフパティシエ／田中健一郎            |       |     |
| 帝国内閣                               | 東京ホテル市長                          |       |     |
| 北岡伸一                               | 国際大学学長、21世紀構想懇談会一座長代理            | 8月31日 | 98  |
| 玉木林太郎                              | OECD事務次長【OECD Dコーポレート・ガバナンス原則改定】 | 9月7日  | 57  |
| 丹羽宇一郎                              | 日中友好協会会長                         | 9月15日 | 102 |
| ブルース・ストークス                         | 米ビュ・リサーチセンター国際経済世論調査部門ディレクター     | 9月18日 | 46  |
| ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン                 | 駐日独大使【ドイツの難民・移民政策】               | 9月18日 | 74  |

詳

|                          |                                |        |     |
|--------------------------|--------------------------------|--------|-----|
| 門川大作                     | 京都市長                           | 9月25日  | 58  |
| アントニオ・カルピオ               | フィリピン最高裁判事                     | 9月25日  | 46  |
| 【南シナ海問題】                 |                                |        |     |
| ルカス・カラツォリス               | 駐日ギリシャ大使                       | 10月6日  | 48  |
| 竹花豊                      | 全国万引犯罪防止機構理事長                  | 10月8日  | 37  |
| 岡慎一                      | 第29回日本エイズ学会学術集会・総会会長【HIV／エイズ】  | 10月15日 | 22  |
| フランク・ジャヌーシ               | 米マンスフイー                        | 10月15日 | 40  |
| ルド財団理事長                  |                                |        |     |
| マリナ・シルバ                  | ブラジル元環境相                       | 10月16日 | 38  |
| 奥野長衛                     | JA全中会長                         | 10月19日 | 71  |
| 甘利明                      | 経済財政・再生担当相                     | 10月20日 | 102 |
| マダス・ローバック                | 駐日スウェーデン大使                     | 10月21日 | 43  |
| 【欧州難民・移民流入問題】            |                                |        |     |
| セルゲイ・イシユトバイン             | 駐日ハンガリー大使                      | 10月21日 | 54  |
| 【欧州難民・移民流入問題】            |                                |        |     |
| ハナ・シンガー                  | ユニセフシリア事務所代表                   | 10月23日 | 61  |
| 山口那津男                    | 公明党代表                          | 10月23日 | 92  |
| マオド・ブーアリブキオ              | 国連「子どもの売買、児童売春、児童ポルノ」に関する特別報告者 | 10月26日 | 38  |
| アンセルモ・ナカタニ               | 日伯文化連盟前理事長                     | 10月26日 | 44  |
| ／ヘル・サントソ                 | インドネシア・ヤヤサン福祉友の会理事長            |        |     |
| ／田中克之                    | 海外日系人協会理事長                     |        |     |
| 【戦後70年 語る・問う34】          |                                |        |     |
| 志位和夫                     | 日本共産党委員長                       | 10月27日 | 108 |
| 野口健                      | 登山家【ネパール大地震のその後】               | 10月27日 | 28  |
| リオネル・ザンシー                | ベナン首相                          | 10月28日 | 20  |
| エディ・ジョーンズ                | ラグビー日本代表チームヘッドコーチ              | 10月30日 | 142 |
| ハンズ・ヨゼフ・フェル              | 独エナジー・ウ                        | 11月4日  | 40  |
| オッチ・グループ会長               |                                |        |     |
| 河野太郎                     | 国家公安・行革・防災担当相                  | 11月5日  | 71  |
| 鈴木英敬                     | 三重県知事                          | 11月11日 | 53  |
| 小倉和夫                     | 日本財団パラリンピックサポートセンター理事長         | 11月12日 | 31  |
| 【日本財団パラリンピック研究会代表】       |                                |        |     |
| 中野晃一                     | 上智大学教授／中北浩爾                    | 11月13日 | 75  |
| 橋大学大学院教授／杉之原真子           | フェリス学院大学准教授                    |        |     |
| 【「戦後保守」は終わったのか 自民党政治の危機】 |                                |        |     |
| ブルース・ストークス               | 米ビュ・リサーチセンター国際経済世論調査部ディレクター    | 11月17日 | 29  |
| 【気候変動に関する国際調査結果】         |                                |        |     |

|                       |                               |        |     |
|-----------------------|-------------------------------|--------|-----|
| ティエリー・ダナ              | 駐日仏大使                         | 11月18日 | 92  |
| 奥野誠亮                  | 元法相【戦後70年 語る・問う36】            | 11月19日 | 56  |
| カー・トン                 | 米首席国務次官補代理                    | 11月19日 | 55  |
| 不破哲三                  | 前日本共産党委員長                     | 11月24日 | 86  |
| 【戦後70年 語る・問う37】       |                               |        |     |
| 鈴木大地                  | スポーツ庁長官                       | 11月26日 | 55  |
| アントニオ・グテレス            | 国連難民高等弁務官                     | 11月26日 | 45  |
| 市川雄一                  | 公明党特別顧問                       | 11月27日 | 80  |
| 【戦後70年 語る・問う38】       |                               |        |     |
| 加藤勝信                  | 1億総活躍・拉致問題相                   | 11月27日 | 85  |
| カリス・タラジ               | 駐日チュニジア大使                     | 12月2日  | 33  |
| 神津里季生                 | 連合会長                          | 12月3日  | 56  |
| 伊吹文明                  | 元衆院議長                         | 12月16日 | 41  |
| 【戦後70年 語る・問う42】       |                               |        |     |
| ナセル・ジュデ               | ヨルダン副首相兼外相                    | 12月17日 | 41  |
| キヤロライン・ケネディ           | 駐日米大使                         | 12月17日 | 201 |
| ファティ・ビロル              | 国際エネルギー機関（IEA）事務局長            | 12月21日 | 51  |
| 梶田隆章                  | 東大宇宙線研究所長                     | 1月7日   | 92  |
| 【ノーベル賞受賞者】            |                               |        |     |
| 野田章子                  | モルディブ国連常駐調整官兼国連開発計画（UNDP）常駐代表 | 1月8日   | 48  |
| 【国連と日本人1】             |                               |        |     |
| 越野修三                  | 岩手大学地域防災研究センター教授              | 1月13日  | 43  |
| 【秋富慎司 防衛医科大学校講師】      |                               |        |     |
| 野田武則                  | 岩手県釜石市長                       | 1月19日  | 37  |
| 【3・11から5年2】           |                               |        |     |
| ジャリル・スルタノフ            | ウズベキスタン日本人抑留者資料館館長            | 1月21日  | 37  |
| アトウール・カレ              | 国連フィールド支援担当事務次長               | 1月22日  | 30  |
| 菅原茂                   | 宮城県気仙沼市長                      | 1月28日  | 47  |
| 【3・11から5年3】           |                               |        |     |
| 御手洗瑞子                 | 気仙沼ニッティング社長                   | 1月29日  | 34  |
| 【3・11から5年4】           |                               |        |     |
| 隈研吾                   | 建築家                           | 2月1日   | 70  |
| 菊地啓夫                  | 宮城県岩沼市長                       | 2月4日   | 30  |
| 【3・11から5年5】           |                               |        |     |
| 大崎敬子                  | 国連本部経済社会局統計部次長                | 2月10日  | 32  |
| 【国連と日本人2】             |                               |        |     |
| 吉田俊通                  | 公益財団法人オイスカ啓発普及部副部長            | 2月10日  | 21  |
| 【櫻井重夫「名取市海岸林再生の会」副会長】 | 【3・11から5年6】                   |        |     |

詳

詳

|                  |                               |       |
|------------------|-------------------------------|-------|
| アビール・オーデ         | パレスチナ国家経済相                    | 2月15日 |
| 杉本和行             | 公正取引委員会委員長                    | 2月15日 |
| ジュリー・ビショッパ       | 豪外相                           | 2月16日 |
| 琴奨菊              | 大関                            | 2月16日 |
| ウエンディー・シャーマン     | 前米国務次官                        | 2月17日 |
| 品川萬里             | 福島県郡山市長【3・11から5年7】            | 2月17日 |
| 志賀俊之             | 産業革新機構会長兼CEO【チェンジ・メーカーズに聞く1】  | 2月19日 |
| 山海嘉之             | サイバーダイイン社長【チェンジ・メーカーズに聞く2】    | 2月22日 |
| 内堀雅雄             | 福島県知事【3・11から5年8】              | 2月22日 |
| 中筋純              | 写真家【3・11から5年9】                | 2月22日 |
| 北岡伸一             | 国際協力機構（JICA）理事【国連と日本人3】       | 2月24日 |
| ウイリアム・レイシー・スウィング | 国                             | 2月25日 |
| 照井翠              | 併人【3・11から5年10】                | 2月26日 |
| ローレンス・トゥビアナ      | 仏気候変動交渉担当大使（COP21特別代表）        | 2月26日 |
| ジェームズ・アクトン       | 米カーネギー国際平和財団上席研究員【3・11から5年11】 | 3月1日  |
| フィリップ・グランディ      | 国連難民高等弁務官                     | 3月2日  |
| 忍足謙朗             | 元国連WFPアジア地域局長【国連と日本人4】        | 3月3日  |
| 黒川清              | 元国会議事故調査委員長【3・11から5年12】       | 3月4日  |
| 野口勝宏             | 写真家【3・11から5年13】               | 3月7日  |
| ゴンサロ・デ・ベニト       | 駐日スペイン大使                      | 3月8日  |
| サウリ・ニーニスト        | フィンランド大統領                     | 3月9日  |
| アリ・ビーザリ          | アメリカ映像作家【原爆機乗員の孫がヒバクシャを訪ねて】   | 3月15日 |
| イーホル・ハルチェンコ      | 駐日ウクライナ大使                     | 3月16日 |
| 胡鞍鋼              | 清華大学国情研究センター長【第13次五カ年計画を読む】   | 3月17日 |
| トビー・ランザ          | 国連事務次長補兼国連サヘル地域担当人道調整官        | 3月18日 |
| 田中俊一             | 原子力規制委員会委員長【3・11から5年14】       | 3月22日 |

102 36 80 61 40 85 38 22 90 36 72 65 29 29 50 54 26 102 65 110 56 65 97 76 55 25

|            |                                    |       |
|------------|------------------------------------|-------|
| フォルカー・カウダー | 独キリスト教民主・社会同盟（CDU／CSU）院内総務         | 3月23日 |
| 小野舞純       | 国連事務総長室シニア・オブイサー【国連と日本人5】          | 3月24日 |
| 黒柳徹子       | ユニセフ親善大使【国連と日本人6】                  | 3月24日 |
| 宮野廣        | 日本原子力学会廃炉検討委員会委員長【3・11から5年15】      | 3月25日 |
| 村井嘉浩       | 宮城県知事【3・11から5年16】                  | 3月25日 |
| 小野寺五典      | 元防衛相【安保法施行と日本の防衛1】                 | 3月28日 |
| 山崎拓        | 元自民党幹事長【安保法施行と日本の防衛2】              | 3月29日 |
| ダニロ・テュルク   | 前スロベニア大統領                          | 3月29日 |
| 鈴木直道       | 北海道夕張市長【再生策会見】                     | 3月30日 |
| 吉田浩一郎      | クラウドワークス代表取締役社長CEO【チェンジ・メーカーズに聞く3】 | 3月30日 |

研究会・懇談会 95回

|       |                                        |       |
|-------|----------------------------------------|-------|
| 高橋伸彰  | 立命館大学教授【現代日本の貧困5】                      | 4月8日  |
| 植木安弘  | 上智大学教授【国連・グローバル問題への対応と課題】              | 4月9日  |
| 石田勇治  | 東京大学大学院教授【ドイツの戦後和解1】                   | 4月17日 |
| 坂本団   | 弁護士、日弁連情報問題対策委員会委員長【マイナンバー、その可能性と危険性1】 | 4月20日 |
| 須田桃子  | 毎日新聞記者【著者と語る『捏造の科学者 STAP細胞事件』】         | 4月21日 |
| 武井彩佳  | 学習院女子大学准教授【ドイツの戦後和解2】                  | 4月22日 |
| 川島真   | 東京大学大学院教授【戦後70年語る・問う15】                | 4月24日 |
| 榎並利博  | 富士通総研経済研究所主席研究員【マイナンバー、その可能性と危険性2】     | 4月24日 |
| 川喜田敦子 | 中央大学教授【ドイツの戦後和解3】                      | 4月24日 |
| 森信茂樹  | 中央大学法科大学院教授【マイナンバー、その可能性と危険性3】         | 4月30日 |
| 新崎盛暉  | 沖縄大学名誉教授【沖縄から考える1】                     | 5月11日 |
| 富田武   | 成蹊大学名誉教授【戦後70年語る・問う16】                 | 5月11日 |

74 88 64 78 68 66 67 67 68 84 36 69 41 42 38 48 52 51 52 86 38 31

詳 詳 詳 詳

|                    |                                          |       |
|--------------------|------------------------------------------|-------|
| 佐藤健生               | 拓殖大学教授【ドイツの戦後和解4】                        | 5月13日 |
| 前泊博盛               | 沖縄国際大学教授【沖縄から考える2】                       | 5月13日 |
| 植木千可子              | 早稲田大学教授【日米安保を考える1】                       | 5月14日 |
| 伊勢崎賢治              | 東京外国語大学教授【著者と語る『本当の戦争の話をしよう』世界の「対立」を仕切る】 | 5月20日 |
| 尾崎真理子              | 読売新聞東京本社編集委員【著者と語る『ひみつつの王国 評伝 石井桃子』】     | 5月21日 |
| ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン | 駐日独大使【ドイツの戦後和解5】                         | 5月25日 |
| 齋藤隆                | 元統合幕僚長【日米安保を考える3】                        | 5月26日 |
| 田中均                | 日本総研国際戦略研究所理事長【日米安保を考える4】                | 5月27日 |
| 松島泰勝               | 龍谷大学教授【沖縄から考える3】                         | 6月2日  |
| 石原信雄               | 元官房副長官【戦後70年語る・問う18】                     | 6月3日  |
| 石田憲                | 千葉大学教授【戦後70年語る・問う19】                     | 6月4日  |
| 高崎智彦               | 国立感染症研究所第一部第2室長【 Deng 熱ほか蚊媒介感染症流行への対応】   | 6月5日  |
| 馬立誠                | 元人民日報論説委員【中国とどうつきあうか13】                  | 6月11日 |
| 小林節                | 慶応大学名誉教授／長谷部恭男早稲田大学法学学術院教授【憲法と安保法制1】     | 6月15日 |
| 小長啓二               | 元通産次官【戦後70年語る・問う20】                      | 6月16日 |
| 森本敏                | 元防衛相【沖縄から考える4】                           | 6月17日 |
| 長元朝浩               | 沖縄タイムス専任論説委員【沖縄から考える5】                   | 6月18日 |
| 西修                 | 駒澤大学名誉教授／百地章 日本大学教授【憲法と安保法制2】            | 6月19日 |
| アンドルー・ゴードン         | 米ハーバード大学教授【戦後70年語る・問う21】                 | 6月22日 |
| 白井聡                | 京都精華大学専任講師【戦後70年語る・問う22】                 | 6月25日 |
| 行天豊雄               | 国際通貨研究所理事長（元大蔵省財務官）【戦後70年語る・問う23】        | 7月1日  |
| ロジャー・パルバース         | 作家、演出家【戦後70年語る・問う24】                     | 7月13日 |
| 今野勉                | テレビ演出家【戦後70年語る・問う25】                     | 7月16日 |

43 45 71 70 84 141 39 70 72 209 86 38 68 94 77 92 85 79 27 53 98 65 95

詳

|     |                                                                |        |
|-----|----------------------------------------------------------------|--------|
| 62  | 藤原作弥 元日銀副総裁【戦後70年 語る・問う <sup>26</sup> 】                        | 7月21日  |
| 67  | 樋口陽一 東京大学名誉教授【戦後70年 語る・問う <sup>27</sup> 】                      | 7月27日  |
| 48  | 森伸生 拓殖大学イスラーム研究所長【イスラームの視点 <sup>2</sup> 】                      | 7月29日  |
| 58  | 青木富貴子 ノンフィクション作家【戦後70年 語る・問う <sup>28</sup> 】                   | 7月30日  |
| 41  | 堀川恵子 ジャーナリスト【著者と語る「原爆供養塔」】                                     | 8月4日   |
| 59  | 宝田明 俳優【戦後70年 語る・問う <sup>29</sup> 】                             | 8月6日   |
| 52  | 坂本慎一 PHD 研究所主事【戦後70年 語る・問う <sup>30</sup> 】                     | 8月6日   |
| 51  | 福永文夫 獨協大学教授【著者と語る「日本占領史」】                                      | 8月7日   |
| 86  | 鈴木宣弘 東京大学大学院教授【T P P <sup>1</sup> 】                            | 8月19日  |
| 29  | 海老原嗣生 雇用ジャーナリスト【新就活 <sup>1</sup> 】                             | 8月24日  |
| 68  | 山下一仁 キヤノングローバル戦略研究所研究主幹【T P P <sup>2</sup> 】                   | 9月2日   |
| 95  | 柯隆 富士通総研首席研究員【どうなる中国経済 <sup>1</sup> 】                          | 9月3日   |
| 106 | 津上俊哉 現代中国研究家【どうなる中国経済 <sup>2</sup> 】                           | 9月4日   |
| 54  | 中山義隆 沖縄県石垣市長【沖縄から考える <sup>6</sup> 】                            | 9月7日   |
| 65  | 大場智満 元大蔵省財務官【戦後70年 語る・問う <sup>31</sup> 】                       | 9月14日  |
| 48  | 井上恭介 NHKエンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー【著者と語る「里海資本論」】                  | 9月24日  |
| 38  | 福井健策 弁護士【リセット 東京五輪 <sup>1</sup> 】                              | 9月28日  |
| 47  | 早川浩 早川書房社長【戦後70年 語る・問う <sup>32</sup> 】                         | 9月29日  |
| 56  | トルコ人ジャーナリストを囲む会                                                | 9月30日  |
| 31  | 「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」共同代表 森まゆみ氏／大橋智子氏【リセット 東京五輪 <sup>2</sup> 】 | 10月1日  |
| 70  | 向井治紀 内閣官房社会保障改革担当室審議官【大丈夫か、マイナンバー <sup>1</sup> 】               | 10月2日  |
| 46  | 其田真理 特定個人情報保護委員会事務局長【大丈夫か、マイナンバー <sup>2</sup> 】                | 10月9日  |
| 57  | 宮下紘 中央大学准教授【大丈夫か、マイナンバー <sup>3</sup> 】                         | 10月13日 |

|                                                                                                         |        |        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|
| 平和博 朝日新聞デジタルウォッチャー、オビニオン編集部記者【変わる取材「ネット活用」】                                                             | 7月17日  | 29     |
| 松波功 中日新聞電子編集部【変わる表現と新しい職種の誕生】                                                                           | 9月25日  | 30     |
| 藤村厚夫 スマートニュース執行役員【ミレニアル世代と向き合う「ブラットフォームの視点」】                                                            | 10月5日  | 35     |
| 橋元良明 東京大学大学院情報学環教授【「ミレニアル世代と向き合う」新しい読者像】                                                                | 10月26日 | 40     |
| 伊藤儀雄 ヤフーニュース事業本部編集部リダー【ミレニアル世代と向き合う「ブラットフォームの視点」】                                                       | 11月9日  | 35     |
| 高田昌幸 高知新聞編集局報道部副部長・部長待遇【権力監視の条件と環境】                                                                     | 11月27日 | 13     |
| 岡村久道 弁護士【改正個人情報保護法と表現の自由「取材の自由を中心に」】                                                                    | 12月7日  | 25     |
| セドリック・サム サウスチャイナ・モーニングポストグラフィックエディター                                                                    | 12月11日 | 22     |
| 松波功 中日新聞電子編集部【デジタルジャーナリズムの具体的手法と展開、暗号メールの入門講習】                                                          | 12月18日 | 15     |
| 山田健太 専修大学教授【報道の公正・多様性】                                                                                  | 12月18日 | 15     |
| 杉田敦 政法大学教授【政治報道の想像力】                                                                                    | 1月25日  | 16     |
| 武田徹 恵泉女学園大学教授【実証の報道・報道の検証】                                                                              | 2月5日   | 26     |
| 松波功 中日新聞電子編集部【CAR Computer-assisted reportingの体験コース】                                                    | 2月13日  | 13     |
| 赤尾光史 元「新聞研究」編集長【編集権を考える】                                                                                | 2月22日  | 8      |
| 鈴木謙介 関西学院大学社会学部准教授【情報飽和時代の報道】                                                                           | 3月14日  | 23     |
| 研究会「なにを伝えるか どう伝えるか」パネリスト…須田桃子 毎日新聞科学環境部記者／長谷川由紀 読売新聞元カイロ支局長                                             | 6月8日   | 49社59人 |
| 対談「戦後70年を語る」保阪正康 作家／原武史 明治学院大学教授                                                                        | 6月8日   | 49社59人 |
| パネルディスカッション「我が社の戦後70年報道」パネリスト…西村修 秋田魁新報編集委員／岡本晃明 京都新聞報道部長代理／宮崎智三 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長／梶井正人 RKB毎日放送報道部副部長 | 6月8日   | 49社59人 |
| 交流会                                                                                                     | 6月8日   | 49社59人 |

|                                                |                                        |                           |        |
|------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------|--------|
| 北京…                                            | 劉晋                                     | 外交部新聞司副司長                 | 11月11日 |
| 成都…                                            | 四川省外字弁公室との夕食会…                         |                           |        |
| 肖永剛                                            | 同室副主任ほか                                |                           |        |
| 四川大地震関連取材…                                     | 都江堰九龍新農村地区訪問                           | 住民へのインタビュー                | 11月12日 |
| 川東映秀鎮被災地の新住宅地、震災遺構（中学校跡）、震災記念館見学、住民へのインタビュー    |                                        |                           |        |
| 成都…                                            | パンダ繁殖基地見学                              | 三星堆博物館                    | 11月13日 |
| 物館…                                            | 川劇変面演出鑑賞                               | 役者へのインタビュー                |        |
| 大阪文楽ツアー                                        | 1／8～9                                  |                           |        |
| 国立文楽劇場                                         | ▼首部屋、床山部屋、衣装部屋作業見学                     | ▼「国性爺合戦」鑑賞                | 1月8日   |
| 形遣い                                            | 吉田幸助さんほか芸員との懇親会                        |                           |        |
| 国立文楽劇場                                         | ▼舞台裏見学                                 | ▼八代・豊竹嶋大夫引退公演「関取千両幟」      | 1月9日   |
| 福島第一原子力発電所取材団                                  | 1／25～27                                |                           |        |
| A班                                             | 福島第一原発取材…1／4号機建屋周辺、陸側遮水壁周辺（防護服を着用して下車） | ▼バスから高性能多核種除去設備、汚染水タンク群など | 1月25日  |
| ▼小野明所長への取材                                     |                                        |                           |        |
| A班、B班                                          | 周辺取材…松本幸英 植葉町長                         | ▼ここなら商店街                  | 1月26日  |
| 開発機構                                           | 福島第一原子力発電所                             | ▼福島第一原子力発電所               |        |
| 1チャルリアリテイ訓練施設、原子炉格納容器実規模試験体、ロボット実証試験設備（モックアップ） | ▼階段、試験用水槽                              |                           |        |
| B班…福島第一原発取材（A班と同内容）                            |                                        |                           |        |
| 岩手・宮城取材団                                       | 2／17～19                                |                           |        |
| 大船渡市…                                          | 三陸サイコー商店会                              | ▼酔仙酒造                     | 2月17日  |
| 熊谷松一                                           | 運行部主任、南リクス線                            | 盛                         |        |
| 唐丹乗車                                           |                                        |                           |        |
| 陸前高田市…                                         | ▼下和野災害公営住宅                             | 自治会長、住民など                 | 2月18日  |
| 木下邦男                                           | 校長                                     | ▼戸羽太市長                    | ▼陸前高田未 |
| 来商店街                                           | 市消防防災センター                              | 佐々木                       |        |
| 誠消防長、見学                                        | ▼新市街予定地かさ上げ工事現場、奇跡の一本松など               | 見学                        | ▼普門寺   |
| 住職                                             | 熊谷光洋さん                                 |                           |        |
| 気仙沼市…                                          | ▼今川悟・気仙沼市議会議員と懇談                       |                           |        |

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| 34社39人 | 13人 | 9社21人 |
|--------|-----|-------|

|                         |                      |                         |                        |
|-------------------------|----------------------|-------------------------|------------------------|
| 気仙沼市…                   | 防潮堤工事見学              | ▼菅原茂市長                  | 2月19日                  |
| 製缶工場「ミヤカン」              | 寺田正志社長、工場見学          | 気仙沼ニッティング               | 御手洗                    |
| 瑞子社長、編み手の方と懇談           |                      |                         |                        |
| 南三陸町…                   | ▼佐藤仁町長               | 市防災対策庁舎見学               | ▼南三陸病院                 |
| 佐々木三郎事務                 | 長、見学                 | ▼戸倉小学校                  | 手塚泰弘防災担当教諭、見学          |
| 福島・宮城取材団                | 2／24～25              |                         |                        |
| 福島市…                    | 「かーちゃんの力」プロジェクト協議会   | 渡辺とみ子会長（於、福島民報社）        | ▼同会運営の「あぶくま茶屋」訪問       |
| ▼菅野典雄村長（於、飯館村役場）        | 飯館村…                 | 菊池製作所                   | 高橋幸一取締役、見学             |
| 南相馬市…                   | 和田智行「小高ワーカーズベース」社長   | ▼仮設スーパードン               | ▼東町エンガワ商店「おだかのひろごはん」見学 |
| 大森プランツ…                 | 佐々木清志郎社長、バラ栽培見学      |                         |                        |
| 南相馬市…                   | ▼ベテランママの会事務所（南相馬市内）  | ▼番場さち子代表、小鷹昌明           | 南相馬市立総合病院医師            |
| ▼南相馬市立総合病院医師            | 南相馬ソーラ               | ▼アグリパーク運営団体「あすびと福島」     | 半谷栄寿代表理事               |
| 相馬市…                    | 立谷秀清市長               | ▼松川浦漁港見学                | ▼山元いちご農園               |
| 岩佐隆社長                   | ▼山元町臨時災害F放送局         | りんごラジオ                  | 高橋厚局長                  |
| G7伊勢志摩サミット事前取材団         | 3／8                  |                         |                        |
| ▼鈴木英敬                   | 三重県知事                | ▼篠原英樹                   | 三重県警察本部警備部長            |
| ▼岩本弘一                   | 三重県庁伊勢志摩サミット推進開催支援課長 | ▼国際メディアセンター（三重県営サンアリーナ） | ▼サミット会場（志摩観光ホテル）       |
| 試写会・上映会                 | 20回                  |                         |                        |
| ハーツ・アンド・マインズ            | ベトナム戦争の真実            |                         |                        |
| 放射線を浴びたX年後（クラブ賞特別賞対象作品） |                      |                         |                        |
| 岳飛伝                     | 英雄岳飛、誕生編             |                         |                        |
| 戦場ぬ止み                   |                      |                         |                        |
| 先祖になる／ルンタ               |                      |                         |                        |
| 6月13日                   | 6月1日                 | 5月25日                   | 5月18日                  |
| 48                      | 62                   | 71                      | 52                     |
| 73                      |                      |                         |                        |

|                         |         |                   |
|-------------------------|---------|-------------------|
| 沖繩                      | うりずんの雨  | 6月15日             |
| 日本のいちばん長い日              |         | 7月10日             |
| 天皇と軍隊                   |         | 8月4日              |
| ドロリン・オブ・ウオー             |         | 9月4日              |
| 顔のないヒトラーたち              |         | 9月14日             |
| 放射線を浴びたX年後2             |         | 10月16日            |
| 放浪の画家                   | ピロスマニ   | 11月2日             |
| 海難1890                  |         | 11月6日             |
| ひつじ村の兄弟                 |         | 12月3日             |
| サウルの息子                  |         | 12月22日            |
| 袴田巖                     | 夢の間の世の中 | 1月12日             |
| バナナの逆襲                  |         | 1月28日             |
| 最高の花婿                   |         | 2月1日              |
| 浴衣カウボーイ                 |         | 3月24日             |
| スポーツライト                 | 世紀のスクープ | 3月25日             |
| 賛助会員の会                  | 1回      |                   |
| 賛助会員と記者の集い              |         |                   |
| 一般行事                    | 5回      |                   |
| ジョージアの夕べ／「コーン・アイランド」    |         |                   |
| 上映ワイン会                  |         |                   |
| 2015年度日本記者クラブ賞贈賞式・パーティー |         |                   |
| 総会記念講演会                 | 柳田邦男    | ノンフィクション作家        |
| 2015年度日本記者クラブ賞受賞記念講演会   | 竹内政明    | 読売新聞東京本社論説委員、伊東英朗 |
| 南海放送ディレクター              |         |                   |
| 2016年新年互礼会員懇親会          |         |                   |
| 趣味の会                    |         |                   |
| 囲碁の会                    | 4／25    | 5／23              |
| 12／18                   | 9／26    | 10／24             |
| 1／23                    | 2／27    | 3／26              |
| ゴルフ会                    | 4／13    | 総武カントリークラブ        |
| 総武コース                   | 10／20   | 磯子カントリークラブ        |
| 6月3日                    | 6月3日    | 5月27日             |
| 207                     | 194     | 122               |
| 160                     | 147     |                   |
| 76                      |         |                   |
| 251                     | 40      | 130               |
| 60                      | 108     | 82                |
| 72                      | 72      | 130               |
| 52                      | 35      | 140               |
| 150                     | 111     | 280               |
| 70                      |         |                   |

詳